



門 八 20
號 249
卷 1

本 4
1867
1-3

1867
1

新金圖書

故
為地三
九郎氏
大正三年
一月

助字詳解序

古伏羲氏始畫八卦三墳五典八索九丘
之書相繼出而文王之演周易也仲尼之
述繫辭也並皆辨名開物之所以為作者
而其所謂名物者乃字義也降逮秦漢學
亡其傳道非其人字義之解率取近似以
彼喻此名物轉背訓詁愈遠偶有用心焉
者徒求諸形貌不知可求諸聲象遂致聖
經不明大道湮晦矣恭惟先師淇園先生

力不詳解

383

身字言解 序
生乎千載之下萬里之外以聰明之質出
拔之才覃思精慮于周易數十季乃知開
物之法存焉據此而作音記萬家用以開
物乃所謂立象盡意用而當名者萬不失
一於是自夫孝悌仁義諸德物之名至古
今慣用之字詳解其義象與其義訓傍引
古書以徵證會通之其著作名疇及詩經
古馬助字法虛字解實字解等書即皆是
也而虛字解獨簡奧因更作之詳解如助

字三書非不備然其解書作文之所關係
最大矣因又作之詳解丁寧反覆無餘蘊
也其諸書皆既上梓行于世助字詳解之
作在先師末年故未完畢稿今茲辛未君
猷先生與社友校此書以付剞劂乃運命
叙於知底知底以辱蒙不棄廁郵名弟子
之藉也不敢辭謝謹書其端曰孔子曰名
不正則言不順乃知學詳明名物可為始
名物得詳明則聖經可以得精究材德因

可以立成而古先王之美績善政亦可以
得復舉觀於今於遠矣則用物之學豈不
甚大乎知底恐世之學者或輕見此書不
深留心焉者因言甘所原出於古之由又
言名之可重而助字之不可不家細究之
故以為序也又化八季秋八月

門人 能登戶部知底謹識



助字詳解卷之一目次

總論 初丁 矣 九丁 止附 也 十三丁 焉 十五丁

省矣也焉等文字法 十八丁 歟 廿四丁

夫 廿六丁 哉 廿七丁 諸 卅二丁 旃 卅三丁

之 卅四丁 而 卅七丁 然 四十丁

力
二
年
解

取字詳解 卷之一 目次
一 取字之義
二 取字之法
三 取字之類
四 取字之例
五 取字之辨
六 取字之疑
七 取字之誤
八 取字之通
九 取字之變
十 取字之奇
十一 取字之怪
十二 取字之俗
十三 取字之雅
十四 取字之文
十五 取字之質
十六 取字之清
十七 取字之濁
十八 取字之淡
十九 取字之濃
二十 取字之淡
二十一 取字之濃
二十二 取字之淡
二十三 取字之濃
二十四 取字之淡
二十五 取字之濃
二十六 取字之淡
二十七 取字之濃
二十八 取字之淡
二十九 取字之濃
三十 取字之淡
三十一 取字之濃
三十二 取字之淡
三十三 取字之濃
三十四 取字之淡
三十五 取字之濃
三十六 取字之淡
三十七 取字之濃
三十八 取字之淡
三十九 取字之濃
四十 取字之淡
四十一 取字之濃
四十二 取字之淡
四十三 取字之濃
四十四 取字之淡
四十五 取字之濃
四十六 取字之淡
四十七 取字之濃
四十八 取字之淡
四十九 取字之濃
五十 取字之淡
五十一 取字之濃
五十二 取字之淡
五十三 取字之濃
五十四 取字之淡
五十五 取字之濃
五十六 取字之淡
五十七 取字之濃
五十八 取字之淡
五十九 取字之濃
六十 取字之淡
六十一 取字之濃
六十二 取字之淡
六十三 取字之濃
六十四 取字之淡
六十五 取字之濃
六十六 取字之淡
六十七 取字之濃
六十八 取字之淡
六十九 取字之濃
七十 取字之淡
七十一 取字之濃
七十二 取字之淡
七十三 取字之濃
七十四 取字之淡
七十五 取字之濃
七十六 取字之淡
七十七 取字之濃
七十八 取字之淡
七十九 取字之濃
八十 取字之淡
八十一 取字之濃
八十二 取字之淡
八十三 取字之濃
八十四 取字之淡
八十五 取字之濃
八十六 取字之淡
八十七 取字之濃
八十八 取字之淡
八十九 取字之濃
九十 取字之淡
九十一 取字之濃
九十二 取字之淡
九十三 取字之濃
九十四 取字之淡
九十五 取字之濃
九十六 取字之淡
九十七 取字之濃
九十八 取字之淡
九十九 取字之濃
一百 取字之淡



助字詳解卷之一

平安 皆川愿伯恭 著

男 免君猷 全

門人 中川恪慎卿 校

總論

凡助字ト称スルモノハ唯本邦ノ言語ニ用ユル所ノテニ
ヲハノ類ナリト心得ベシ。サレバテト云フハ聞人ニ只今言
タル所ノコトヲバハリ引分リ持テ後ヨリ言フ事ヲハ其引ハリ持テ
ルコトニ付ケ合ヒテ思ワス意持ナリ。ニト云フハ聞人ノ心ニ
今言タル所ノコトヲ後ヨリ言フ物事ノカハリ往夕場処ニシ
テ思ワス意持ナリ。ヲト云フハ聞人ノ心ニ今言タル所ノコト

耳言角 卷之二
ヲカ、エモタセテ後ヨリ言フ辞ニ其ヲフリマワスヲ言
ヒ出スヲ待タセ思ワス意持ナリハト云フハ聞人ノ心ニ
今言タル所ノヲ余ノ事ニ混ゼサルヤフニ別ニ一ハナト
シモタセテ後ヨリ言フ辞ニ其カ筋谷ノ立ユク処ヲ言出ス
ヲ待タセ思ワス意持ナリ凡ソ本邦ノ人平日ノ言語ニ用
ユルコノ助辞此テニヲハニ限ラズ其類尚甚多キヲナ
ルガ本邦ノ人ノ右ノテニヲハノ類ヲ平常日用ノ言語ニ用
ユルニ思慮擬議ニ涉ラズシテ賢愚老幼ノ差別ナク大抵其
言舌ノ自由ヲ得タル事ニナリテハ縱横任意ニシテ右ノ語
助ヲ使用スルニ大都皆言々節ニ中リ語々其宜ニ協ヘリ
テ其言語ニ其ヲ用ユル処ノ意持ニハ其差別ヲ能ク辨シ知
リテ右ノ如キ能用ヲ為スカト思ヘバ其コレヲ言フ処ノ趣
ハタバ何トナク言ヒ覺ヘテ右ノ妙用ニ協フニイタレ
ナリケ様ノヲ易ノ繫辞傳ニ百姓日用而不知トイヘル即
チ是ナリ
本邦往古ノ人ノ言語今人ノ言語ト大ニ異ナル故ニ古人ノ

思慮擬議ニ涉ラスシテ縱横任意ニ言出シテ言々節ニ中ル
語々其宜ニ協ヒタルトコロノ語辞ヲ今人コレヲロニシテ
言ヘバタバ信屈贅牙ナルノミヲ覺ユルノミニテ其何ノ旨
タルヲ辨識スルヲ能ワスヲナリ西土ノ古書ノ文讀難キ
モヤハリ同シ類ナルヲニテ此ハ其時代迥ニ隔リテ民俗ノ
風習全ク殊ニナリタル故ニ右ノ如ク知リ難キヲニナリタ
ルナリ
右ニ言ヘルニ端ノ差別ヲ先ツ其致一ナリト思フヘシ其故
ハ今人日用ノ言語ヲ出スニ平生其神氣ノ安泰ニテ其精明
ノ用滞リナキ時ニハ誠ニ言々節ニ中リ語々宜ニ協ヘレ
且事一達ヒ思ヒニ滞ルヲアリテ神氣内ニ沮ニ妙用伸ヒ難
キニイタリテハ言語差錯シ黑白顛倒シテ其身ハ折角ツレ
ヲ辨シ言フ心ナレレ言舌クニ付キマハリ難クシテ人ノ
クレヲ聞者ニハ一切聞ヘヌトナルヲアリ右ノ程ニハ非
ス凡其人フト其言出ス語辞ニ工夫ヲ付ケテタトハハト
云テヨカラニカハト云テヨカニカト擬議スル意出來リ

力之辨

テハ平日ノ言語一切ニ皆其意人疑迷ヲ生スル一ニナリ後
ニハ或ハ無体ナル強誣ノ説ヲツケテソレヲ言出シ聞者捧
腹シテ笑フ一ニモ至ル一アリ

九ノ言語ノ道ニハ本邦ノ人ノ平常言語ノ間トイヘ凡ヤハ
リケ様ナル妙ナル道理ヲモチアルモノナリサル故ニ西土
ノ中古ノ諸名賢古籍ニ博覽ニシテ廣識胸ニ滿チ文辭ニ熟
習シテ咳唾篇ヲ成スノ人トイヘ凡古書ヲ解シ文理ヲ辨ス
ルニイタリテハ謬誤冊ニ充チ強誣帙ニ盈タル一多キ一ヲ
致セルナリ余嘗テ右様ノ事ノ文辭言語ヲ執アツカフ内ニ
アル一ヲ漆塗ノ木屐ヲ着ケテ氷ノ上ヲ走り行クニタトヘ
タル一アリ其故ハ漆木屐ヲ以氷上ヲ行ク人ハ足ヲ輕クフ
ニ身ヲ引擧ケテハヤク歩ム時ハ滯リナク行カル一凡足ニ
カヲ用テフヨクフニトノ一トスル時ハ是非ニスベリテコ
ロブ一トリ先賢ノ古書ヲ解スルニ謬語多キハ並ニ皆是ノ
如キノ由ヨリ出タル一ナリ又歐陽永叔蘇子瞻等ノ文其日
用尺牘其他諸奏議記誌雜識ノ類ハ意氣縱橫ニシテ筆力

越シタレ凡古文ノ体ニ擬シテ作レル諸論説ニ至リテ
ハ辭理錯繆多ク語勢毎年不順ナル一多シ元明ノ諸家ハ尚
更是類多クシテ枚擧スルニ遑ナキ程ノ一ナリ余嘗歐蕪文
彈ト云フ一書ヲ著シタル一アリ後ニハ其稿ヲ失ヒテ上木
セガレ凡門人ノ内ニ謄寫セシ人多ケレハ其ヲ得テ讀人ア
ラバ余ガ過論ニ非サル一ヲ知ラルヘキナリ
文字言語ハ右ノ如キ物ナル故ニ民日用スレ凡其旨ヲ知ル
一ニイタリテハ其事甚難キモノナル故ニ其道ノ立チアル
処ヲ深ク考ヘテ其餘理ニ戻ラザルヤフニシテ學バザレバ
世俗ニ所謂畝水練ト云モノ如キ類トナリテ終身ソレヲ
為居リテモ始終疑網ノ中ヲ出ル一ナク自得シテ通達スル
一ナリ難カルベシ九ノ世ノコレヲ知ラザルモノハ言語ハ
何カナクヨク言語スル人ニ付キテヒタト其一子ヲスレバ
クレニテ能辨ノ人トナリ詩ヲ作り文ヲ書ク一モ善ク作り
タル詩ヲヒタト熟誦シ善作りタル文ヲヒタト倣ヒテ作レ
バソレニテ詩文ヲヨクスル人トナリ古書ヲ解スルモヒタ

ト古書ヲ玩ヒテ解シ見レバ、フレニテ古書ハヨク通曉セラ
ル、モノトノミ思ヘリ。是ノ如キノ見コミニテ是ノ如キノ
學ビカタヲナスハイヅレモ皆專ナキ畠水練ラスルノ類ナ
リ。昔シ楚ノ優孟ト云タル人、孫叔敖カ死後ニ、孫叔敖カ衣冠
ヲ着テ其言笑態度ヲウツシタルガ能ク孫叔敖ニ似タリト
云ルアリ。サレバ孫叔敖ノ貴ブベキハ其才徳ノ人ニフグ
レタル所ニ孫叔敖アリテ、其衣冠言語態度ノ似タルハ、何ノ
用ニモ立モノニ非ザルモノナリ。言語モ其物ヲ辨シ、理ヲ晰
スルノ用ニ施スベカラズニバ、口氣ハ似タリ、何ノ益アラ
ニヤ。詩ヲ作りテモ、物情ヲ感動スベキニ到ラズ、文ヲ作りテ
モ、事物ノ情理ヲ曲寫スルニ足ラズ、古書ヲ讀ミテモ、其作者
ノ精意ニ通到スルヲ得ベカラザレバ、何ホドニエヲ積ミ
タリ、氏、畢竟隔靴搔痒ノ伎倆ヲ獲ルノミニテ、何事モ實用ニ
中ルニハ、ナリ難カルベシ。

シテ、大都皆言々節々中リ、語々其宜ニ協ヘルヲ得ル故又
明スベシ。凡ソ人ノ心中ニ動ク神氣ハ、即チ天地間ノ神氣ノ
通ヒテ、人ノ心主ノ觀感スルトコロノ萬象ノ變動ノ運為ヲ
現ジ、又因テ其心主ノ思擬ノ象又作ヌ日ヲ為ル物ナル故ニ、
其人々ノ心中ニ動クトコロノ彼我屈伸出入往來、千態萬狀
擧數ベカスザルモノナリ。人ノ聲音ハ、又其觀感スルトコロ
ノ、物ノ情態ニ隨ヒテ、フレヲ形容シテ言フノ用ナル故ニ、此
亦千萬聲ノ變化トナレリ。サレバ聲音ノ妙用ハ、其神氣ノス
ブルトコロニ屈セルモノニテ、其象自然ノ勢ニヨリテ、神氣
ヨリフレニ應感シ、其分々ニ應スルノ聲又出セリ。是故ニ、心
ハ神氣ニヨリテ、其動ヲ作スルヲ得、神氣ハ聲音ノ萬別ニ乘
リテ、其情ノ微至ヲ盡スルヲ得ルヲナルニ、心ト聲音トノ相
於ケルハ、其中間ニ神氣ヲ介シテ、直通ヲ得ベカラザレバ、
ナリ。其事是ノ如クナルモノナル故ニ、人々ノ言語ニ於ケル
ハ、日用スレ、其情ニ連スルヲ甚難シ、易ノ繫辭傳ニ、精義入
神、以致用也。トイヘリ。ガレバ右ノ神氣ノ用ヲ、已ニ通知スル

トヲ得タク思ハ、先其精義入神ノ道ヲ思ヒ求ムベシ、
精義入神ノ道ト云ハ、易ノ開物ノ學即チ是ナリ、右ノ開物ノ
學ニ通ジ得レバ、神氣物ニ感ジテ、其象ヲ聲音ニアラハスト
コロ、古モ今モト轍ノ事ニテダ、其古今ノ差別其義ヲ用ユ
ルトコロ、古ハ深シテ全ク、今ハ淺シテ盡サレノミノ相違
ナルト、又其風習ニヨリテ、言語繁簡ノ差別アル故ニ、知ラガ
ルモノヨリコレヲ見レバ、截然各異ナル如クニアレ、凡知ル
モノヨリコレヲ觀レバ、神氣ノ用ハ、萬古一轍ニテ、少シノ相
異アルトナシ、右ノ如キモノナル故ニ、前ニモ先ヅト致ナリ
ト思フベシトイヘルナリ、
サレバ古人ノ書ヲ讀ミテ、其文意ヲバ通シ知ラント思フニ、
モ、先ヅ其古人ノソレヲ言ニアラハシテ、ソレヲ書キツケ
タル、其辭旨ノ持合ヲナシタル処ニ、心ヲ付ケテ、其持合ヲナ
シタル処ヨリ、其意味ヲ推シテ、ソレニテ其文意ノ全体ヲ通
ジ知ラントシ求ムルト肝要ナリ、左ニアラスシテ、讀ムナリ
ニシテ其文意ヲ解スルトニセントスレバ、多クハ己ガ意ヲ

主トシテヨムトニナル故ニ、其文中ノ一二言バカリヲ讀取
リ、其餘ノ文字ハ遺シ置キテ、復細ニ其旨ヲ究メズ、タ、其讀
取タル其トニ言ヲバ、己ガ意ヲ綴リ合セテ、作者ノ旨ニハ無
キトヲ強証シテ、其旨ナリト思フトニナルト多クシテ、先儒ノ古
書ヲ解釋シタルニ、此弊ニ陥リタルト甚ク多クシテ、其明ニ
セントシタルガ、却テ先聖ノ旨ヲ闡蔽スルトニナリテ、後世
ノ人ヲモ誤タス、往々ニアルトハ、亦全ク文理ハ天下ノ文
理ニシテ、其神用ニ合セザレバ、其理ノ昭晰ナルニ通ジガタ
キ故ニ、其神用ヲハナレテ、心ノ思フ処バカリヲ以テハ、讀ミ
得ヘカラス、解シ得ベカラザルト、知ラザル故ノ過ナリ、
凡ク天下ノ文理ハ、右ノ如クナルモノニテ、總テ天下ノ神明
ノ徳ノ辨別スル所ニ属シタル物ナル故ニ、天下ノ明德ハ、天
下ノ文徳ト相合ス、即チ一ニシテニ、ニシテ一ナルモノナ
リ、サレバ、一切ノ物ノ道理モ、其文ニヨルニ非サレバ、立又モ
ノナリ、ソレヲ知ラズシテ、文字ヲ離レテ、物ノ道理ノスチヲ
會得セントスル人間アレ、凡此ハ究竟無理ナルトニナル故

力字詳解 卷之一

ニ、タトヒ其理ニ通達シテ、其ハタラキ縦横無礙ニシテ、自在
 ニ流通スルヤフニ見ユルヲニナリテモ、是ハ譬バ浮萍ノ葉
 ノ水面ニハビコリテ、瀰滿繁鋪シタルガ如キモノナル故ニ。
 其水ガ風ニ吹カレテ、大ニ動ク時ニイタリテハ、忽チ其瀰滿
 繁鋪ノ姿ヲ失フガ如クニ、無クナルベシ。ソノ辨ニノブル
 道理モソレニ根トナルベシ。往古ヨリソレヲ傳ヘタル、文字
 ノ証ナケレバ、其道理ヲ其心ノ内ニ執レルニモ、フレヲ繫キ
 維持シテ、古人ニ引合セ付クル種ナキ故ニ、其中ノ實ニ信根
 立、ズ、信根立、ザル故ニ、其心ノ底ニハ、トカク疑惑ヲ抱ク
 一ニナリテ、畢竟浮虚ノ贅用トナルヲナリ。
 サレバ天下一切ノ事物ノ道理ハ、皆其名ニ属シテ立ツモノ
 ニテ、名ノ別ハ、即チ文字ノ別ナリ。文字ノ義趣ノ別ハ、神識ノ
 ソレヲ比會シテ、斟酌處分スル所ニヨリテ出ルモノナル故
 ニ、神識ニ考ヘテ、其斟酌處分スルノ趣ヲバ、心ニ忘ル、一十
 久、思ヲツトメテ、其処ニ至ラザレバ、古人ノ文ヲ讀ミテ、其
 真旨ヲ解釋シ得ル一ニハ、至ラザレバ、ト思フベシ。己ガ心

ヲ述ヘテ、文字ニ書キアラワシ、人ニサトサントスル一モ、其
 丈、理ノ款曲ノ盡スベキ処ガ、行キト、カザレバ、己ノ三聞エ
 テ、人ニハ聞エヌ文字トナルベキナリ。
 サテ一切ノ文理ト云モノモ、其語勢ニヨリテ生スルモノナ
 リ、ソノ故ハ、語勢ト云モノハ、其時ニアタレル神用ノ活機ヲ
 フクミタルモノガ、其語勢トナリタルモノナル故ニ、其活タ
 ル神彩氣勢ヲ、其儘ニシテ貫ヌカシテ書ク一ガ、文ノ要ナル
 故ニ、タトヘバ、緩ナルニハ、緩ニシテフレヲ承テ、急ナルニハ、
 急ニシテフレヲ承ル、即チ文理ノ生スル所ナリ、一切ノ語ノ
 詳畧先後ノ宜モ、此處ヲ矩トシテ考ヘテ、其宜不、宜ヲ別ツ一
 ナリ。
 語勢ト云モノハ、文字ノツキ合セト、語意ノウツリ様ノ品ノ
 立チカタニヨリテ、其中ニ含メル意氣ノキオヒガ、即チ語勢
 ト云モノニナル一ナルガ故ニ、其要トスルトコロハ、字義ナ
 リ、然レ、臣吾所謂字義ハ、世ニ稱スル所ノ字義ト異ナリ、世ニ
 稱スル所ノ字義ト云モノハ、字書ニ注セル所ヲ以テ字義ト

オモヘリシカレ也此ハ余著ハセル問學舉要ニモ戴侗ガ六
書故ノ説ヲ引テコレヲ辨ゼリ六書説文ニ倚依互ニ相釋ト
云ルニテ知ルベシ説文依ノ注ニ倚也ト注シ倚ノ注ニ依也
ト注シテヨセ合セテ考フルニ依倚ノ二字混ジテ分ツベカ
ラザルコトナリナリ字義ハ字書ノ注ニテ其大畧ハ知ルレ也
其精義ニ至リテハ其文字ノ聲ニヨリテ易ノ開物ノ法ニヨリ
テコレヲ開カザレバトクトシタル処ハ知レザルコトナリ然
レ也開物ノ法ハ其法ニ精練セザレバ其趣知レ難キモノナ
ル故ニ余初學ノタメニ此ヲ畧通サセニガ為ニ實字解虚字
詳解ヲ著セリ今此助字詳解モ其説ケル処ノ義並ニ皆開物
ノ法ヨリ出タルモノナリト心得ヘシ
九字義實字ハ知リ易久虚字ハ稍難シ虚字ハ虚ニシテタ
其模様ノミアリテ人ノ心ニワノサマヲ持チテ後ニ知ルベ
キ故ナリ助字猶更其虚字ヲ以テ物若ハ事ノサマヲ形容ス
ルニ付ケテ其ヲ聞ク人ノ心ニワレヲ持チ思フ処ニツケテ
其ツレヲ持チテ思ヒヤフ人ノ心ノハツミヲ活シテ思ハセン

トテ用ユル文字ナル故ニ尤モ心ニ入り難キモノナリ
凡ソ物ノ名ノ分ルトコロハ並ニ皆其外物ヨリ其物ニウツ
リ合フトコロノ筋ニヨリテ立ツモノナリ譬ハ同シ一人十
レ也父ヨリウツリ合セテ呼ヘバ子ナリ君ヨリウツリ合セ
テ呼ヘバ臣ナリ兄ヨリ呼ヘバ弟弟ヨリ呼ヘハ兄妻ヨリ呼
ヘバ夫ナリ一切ノ文字並ニ皆事若ハ物ノ名ナリタトヘバ
喜悅怡欣ト云四字ハ繫スルニ一ツノヨロコビノコトナリサ
レ也今マデ心氣ノ死ニアリタルヨリ云ヘバ心氣ガウキタ
フテ外ニアラハルト云フニマワリテ喜ノ字ナリ今マデ
ハ心ニイマダ行トバカスト未得トシ思ヘルニカケテ云ヘ
バ悦ノ字ナリブレニ心ガノリテ思ワズ氣ガフレニ引レテ
ノリ行ク様ニナリタルニシテ云ヘバ怡ノ字ナリ今マデ勢
ナク内ニ閑テアリタルガ心ヲ得タルニヨリテ急ニ外ガワ
ヘハ子出シタル処ニシテ語レバ欣ノ字ナリサレバ物ハ同
シトナレ也唯其ウツリ合ノスダニヨリテ右ノ四字ノ別
ナリトナリ一切ノ虚ナル文字皆是類ニテ推シ知ル

助字ハ右ニ言ル如ク物若ハ事ノサマヌ心ニ持チ思フ処ニ
ツケテ其持ヤフノ心ノハツミヌ活シテ思ハセニガ為ニ用
ユル字ニテ愈盛ニシテ知リ難キモノナリ然レモ一切ノ文
字ノ義ヲ心ニ通知スルヲ得ニト思ハバ爰ニ一ツノ心得
アリ文字ヲ積累シテ其文字ノ義ノウツリ合ニテ物ノ事情
ヲウツシタル處ハ譬ハ自鳴鐘ノ輪ヲフレクニ取クミ合セ
テ鉛墜ヲ重リニカケテ輪ヲ自カラメグラシフレニヨリテ
活動ノ機ヲ其中ニ合ミメグリテ時ヲ告ル鐘聲ノ出ル如キ
モノニテ其ヲエミテ作りタルハ人ノ思ヒヨリ出タル也其
成就シテ其妙ノ見ワルトコロハ其輪々ノ取り合セト鉛
墜ノ重リノフレヲメグラスニヨリテナレルモノナリ其處
ニイタリテハ人エノ手ツダフベキトコロニアラス文字モ
右ノ自鳴鐘ノ如キモノニテ文字ト文字ノ義ノタミ合セニ
テ其スレ合ノ間ヨリ其文義ヲウツミ出セリ助語ハ其鉛墜ア
ルガ如キモノニテ其文字ト文字ノ持合ノ勢ノハツミヲモ
タセル道具ナリト思フベシ今此助字詳解ハ此処ヲ喻サン

タメニ木抵毎字ニ先本邦ノ人ノ言語ノ内ニ其字ヲ用ユベ
キハツミノエ合ノフレヲ用ユベキ処ヲ擧ゲテフレヲ喻ス
學者心ヲ潜メテ考ヘテ自得アルベシ

學法の... 御侍御傘ト申セ宮城野ノ木ノ下露ハ雨ニマサレ...

助字詳解卷之一

矣

止字附

此字ハ語尾ニ用ユル字ニテ本邦ノ人ノ言語ニハ此矣... 古今集 御侍御傘ト申セ宮城野ノ木ノ下露ハ雨ニマサレ...

力二...

同集玉虫ノ小瓶ヤイヅラ小ヨロギノ磯ノ浪分オキニ
 出ニケリ此ケリノ下ニモ矣ノ字アルベキ語勢ナリ此
 歌ハ寛平ノ朝ニ上ノ侍中瓶ヲモタセテ后宮ノ方ニ御
 酒ノ餘ト云テモタセテ奉リケルヲ女藏人臣咲テ瓶ヲ
 御前ニ持出テ何トモ言ハス成ニケレバ使ノ還リ來テ
 其事ヲカタリケレバ其藏人ノ中ニ敏行朝臣ガヨ三オ
 クレル歌ナリ存ノ外ナル御前へ出テシマフタリト云
 コ、ロニテ出ニケリトヨメルナリ故ニ矣ノ字アルベ
 キニアタルナリ此ヨリ下ハ語ノ中程ニ矣ノ字アルベ
 キ語勢ヲ云ニタトヘバ
 同集萩ノ露玉ニヌカント取レバケヌヨシ見ム人ハ枝
 ナガラ三ヨ此ケヌハ消ヌト云フニテ此ケヌノ下ニモ
 矣ノ字アルベキ語勢ナリ消タルナガバニ向フニアリ
 テ立チタル故ニ枝ナガラ見ヨト云フニ自カラ思ウワ
 ラセルナリニシテ云ル意持ナル故ナリ
 同集名ニメデ、折レルバカリゾ女郎花我オチニキト

人ニカタルナトヨメルオチニキノ下ニモ矣ノ字アル
 ベキ語勢ナリ左様ノ下アリタトシテ向フニツレラ
 立テスエテ語ル語勢ニハ此類並ニ皆矣ノ字アルベキ
 ナリナレト古、眞夏典謨訓誥ノ文ニハ此字ヲ用タル
 見アタラズ是ハ典謨訓誥ノ文ハ物ノ情實ノ道ノ規則
 トナスベキヲ言述ルナリ主トセル故ニ矣也焉等ノ事
 物ノナリユキ又ハ物ノ品ワケ其事物ヲヨセテ思ハス
 ル場処ヲ指シ示ス語勢ヲ用ルナリハナキ故ニ用ザルナ
 リ夏虞ノ世トテモ日用ノ語中ニハ用タルナリベシ
 左氏ニ用タル矣ノ字ハ余著ハセル左氏助字法中ニ詳
 ナレバ今舉ヒズ詩齊風ニ雞既鳴矣朝既盈矣ト云ルハ
 問答ノ語ナリ女ト士ハ同寢シテアリタルガ女ガ夫ニ
 告テ雞ガ既シテハウタフベシト云ナラバ士ヨリハ其
 旨ヲ引トリス、メテ朝廷ニ朝セル者ガ已ニ盈フル
 ニナルベシト云ヘシト言フナリ此ハ未然ノ処ノ甘
 ヤフニナリユクベキ様子ヲ向フニ立テブレニテ思フ

ウツラセニトシテ言タルコ、口モチナリ、大雅ニ鳳凰
 鳴矣于彼高岡ト云ルハ、人ガ己ニ語りテ、鳳凰ガ鳴テ居
 レリト云ハ、彼處ナル高岡ノ處ニ于ニセルナルベシ
 ト思フベシト云フナリ、此ハ語ル人、己ガ見タル様子ノ
 アチラニ有ルサマヲ向ニ立テ、語ルコ、口モチニシ
 テ、矣ノ字ヲ置タルモノナリ、詩ノ助字モ、詩經助字法ニ
 詳ナリ、但シ召南ニ、亦既見止、亦既覯止、我心則降ト云ル
 齊風ニ取妻如之、何必告父母、既且告止、曷又鞠止ト云ル
 止ノ字矣ノ字ニ似タルヤフナレト、止ハ左様ニ云フニ
 ナリタラバト云フ意ニテ、今ノ處ヲサキニテ成リ往ク
 處ヘヤリ越ストニシテ、思ハスルコ、口モチナリ、矣ノ
 字ハ、大ニ異ナリト思フヘシ、鞠止ノ止ハ、上ノ告止ノ止
 ノ響ヲ、今一改持コシテ、鞠ノ字ノ下ニ付ケタルセ、ナ
 リ、檀弓ニ孔子哭子路於中庭、進使者而問故、使者曰醢之
 矣、遂命覆醢トイヘルハ、衛ノ國ニテ子路ヲ殺シテ、其肉
 ヲハ醢シセリト告タルトニシテ、衛國ニテノ様子ヲ向

フニ立テ、ソレヲ語ルコ、口ナル故ニ、矣ノ字ヲ用タル
 ナリ、孔子ノ防ニ合葬シ給タルニ、孔子先友門人後、雨甚
 至、孔子問焉曰、爾來何遲也、曰、防墓崩、孔子不應トイヘル
 此防墓崩ノ下ニ、矣ノ字カ也、字アルベキニ似タル處ナ
 リ、遲ク來リタル故ヲ明カス意ニトリテハ、也ノ字ナリ、
 只其崩レタルヲ告ル意ナラバ、矣ノ字ナリ、矣ノ字ハ前
 ノ語勢ニカナワ又故ニ、マダシモ也ノ字ナルヘキトナ
 ルガ、其也ノ字モナキワケハ、防ノ墓ガ崩タリト思シ召
 セト云キニニテ、矣也等ヲ用テ、別段ニ向フニ立テ、言
 ヒ、又ハ品ヲワケテ告ルニ及バ、又也ナル故ナリ、矣也等
 ヲハワスベキ處ヲ知ラザレバ、置クベキ處モ知レ又モ
 ノナリ、考フベシ、魯語ニ、公父文伯母ノ文伯ニ告タル語
 ヲ聞テ、仲尼ノ語ニ、弟子記之、季氏之婦不淫矣ト云給ル
 ハ、季氏ノ婦ハ淫セ又ト云名ノワク、トニナワテアルト
 云コ、口ナリ、其次章ノ以為、別於男女之禮矣ト云給ル
 モ、男女ニ別ツノ禮ニアタルトニナリテアルトイフコ

コロナリ。齊策ニ為君舎人而内與夫人相愛者亦甚不義
 矣。君其殺之。トイヘルハ。夫人トノナレ。甚不義ト名
 付クル。ニ成ツテアル。ナレハ。君ハ其取扱フニハ。コ
 レヲ殺ス。ニナサレヨト云。ニテ。コレヲ殺セト云。ト
 ラ言ハニトテ。甚不義トイフ名ノ付ク。ニナリアル。ト
 ラ。向フニ立テス。ト云。其今ノウツリヲ取ラニタノニ。矣
 ノ字ヲ置ケルモ。ナリ。周策ニ。養申基ガ柳葉ヲ射居
 ル。処又有一人過曰。善射。可教射也。矣。トイヘルハ。射ル
 ガ上手ジヤ。射ル。ヲオシエラル。モノヂヤト云フニ
 ナツテアル。ト云フコ。ロナリ。莊子讓主篇ニ。曾子ガ食
 シテ衛ニ居リテ。衣冠弊レナガラ。高頌ヲ歌ヒ。聲滿天地
 若出金石ト云下。天子不得臣諸侯不得友。故養志者忘
 形。養形者忘利。致道者忘心。矣。トアリ。此ハ天子諸侯ノ友
 トシ臣トスル。ヲ得サル。故ヲバ。説キタルニテ。故養志
 ノ故ノ字故ニト讀ムベカラズ。故ハトヨムベシ。其心立
 テ。形ヲ養フヨリハ。一段打コシタル心ガケニテ。志ヲ養

フ者ハ。形ヲモ忘ル。故ニ。天子諸侯ヨリ羈スベキ所ナ
 キ故ニ。不得臣友ナリ。忘心ノ者ハ。又其上ノ一段ナリ。イ
 ヅレ。モ。此矣ノ字ニテ。其内面ノ操ノ立カメニテ。依ラ
 一又様子ヲ立テシメシテ。サテ前ノ友臣ノ得サルノワ
 ケヲ思ヒ合サセルコ。ロニテ。此矣ノ字ヲ置タルモノ
 ナリ。前漢ノ比ノ文ニ用ユル矣ノ字モ。其語理ガ。後世ニ
 ナリ行クニ隨テ。繁冗ニナル。故ニ。矣ノ字ハ同ジコ。ロ
 ナレ。凡。矣ノ字ニモタセルハ。ヅミガ。次第ニユルクナリ
 テ。輕クナリタリ。タトヘバ。巨ナル礎ニ。小家ノ細キ柱ヲ
 モタセタルガ如クニテ。礎ノカノ左ノミ見ヘヌ。トニナ
 リタル。ト多シト知ルベシ。此ハ矣ノ字ニ限ラズ。諸文字
 助語並ニ皆右ノ如シト知ルベキ。トナリ。世説ニ。陶貞白
 仙ヲ好ミテ。謂人曰。仰青雲。觀白日。不為遠矣。トイヘルハ。
 世ニハ遠矣。ト云。トナレ。凡。我ハ左様ニ思フ。直ニ上昇
 シテ。登仙シ到ラルベシト思フ。ト云。トナリ。周子居云。吾
 時月不見黃叔度。則鄙吝之心已復生矣。ト云ルハ。吾ハ時

月アリテ、黄叔度ヲ見ヌ_レチヤト云_レニ、外ガワガナル
 ニナリタル時ハ、胸中ニハ鄙吝ノ心入_レガ、モフハヤイセ
 ニノ如クニ生ジテアル_レニナリテアルト云コ、口ナ
 リ、イヅレニモ、後漢ノ頃ヨリ、言語ノ古ト異ナル_レニナ
 リタル_レヲ、應紹ガ風俗通ニ、コレヲ言ヒテ、已ニ全ク論
 タルガ、六朝ノ頃ヨリ、五胡ノ亂ヲ經テ、漢エ又往昔ヨリ
 ノ語勢ニ、胡人ノ語勢ヲモ間一用ユル_レニナリテ、俗語
 ト云モノ起リテ、日用ノ言語、全ク異ナル_レニナリテ、往
 古ノ語助矣馬等ノ語ハ、多クハ唯古文ヲ倣ヒテ書クモ
 ノバカリゾ、_レ文字ニノ三用ヒテ書ク_レニナリタル
 故ニ、漢土ノ人モ、古書ニ熟練シタル人ニアラザレバ、往
 往用法ヲ誤失スル_レアリタリト見エテ、柳子厚ガ杜温
 夫ニ復スル書ニハ、杜ガ也矣馬ノ用カタノ失ヲバ、譏リ
 テ書ケル文アリ、唐ノ頃スラ右ノ如クナレバ、宋元已下
 ハ猶更ノ_レナリ、サレバ、歐陽永叔蘇軾ナトノ名賢モ、古
 文ニ倣ヒテ書タル文ニハ、用字ノ誤甚多シ、故ニ宋元已下

也

ノ文ハ、法トスルニ足ラズトシテ、今此書ニハ韓柳ヨリ
 スベテ其文ヲ擧ゲテ例トセヌナリ
 此モ語尾ニ用ユル字ニテ、本邦ノ人ノ言語ニ常ニ用ユ
 ル所人、コレハワレヂヤ、カヤフ_レチ、_レナド云フヂヤ
 ノ意ニアタル文字ナリ、向フ相手ノ神氣ニ持テ來ル_レ
 ヌ、我語リテスチヲ立テ、ワケ言フタルヲ、其内ニモツ
 タル物ノ_レトシ、スハルニシ、思ハスルニ用ユ、譬ハ向フ
 相羊ノ神氣ニ、難波ノ蘆ト云_レヲ持チ居ルヲ、語ル人ガ
 其蘆ヲ人ノ呼ヒ來リタルニ、其スチヲ立テ、ソレハ伊勢
 ノ濱荻ト云フガフレヂヤトイヒテ、ソレヲ聞人ノ心ニ
 ハ、_レ此ハ其スチニ合フモノトシ、思ハスル類ナリ
 古今集 春ノ夜ノヤミハアヤナシ、梅花色_レコソ三子香ヤ
 ハカクル、此アヤナシト云ハ、無益ト云_レニテ、此アヤ
 ナシノ下ニ、西土ノ人ノ語ナレバ、也ノ字アルベシ、春ノ
 夜ノヤミハ無益ナト云名ノ付クスチニユク_レヂヤナ
 リ

同集 三月見レバチニ物コフ悲シケレ我身ヒトツノ秋
 二ハアラ子ド此秋ノ字ノ下ニ西土ノ人ノ語ナレバ也
 ノ字アルベシ我身ヒトツノ秋ヂヤト名ノ付クスヂノ
 物ニハアラ子ドト云氣味ナリ
 同集 今サラニ何オヒ出ラニ竹ノ子ノウキフシシゲキ
 世トハ知ラズヤ此ウキフシシゲキ世ノ下モ也ノ字ア
 ルベキ語勢ナリ憂フシ繁キ世ト名付ケテ其スチニナ
 リテアル世ヂヤトハ知ラスシテアルベキ様ナキニ何
 トテ生出タルブト云フナリ
 詩ノ邨風ニ我心匪石不可轉也我心匪席不可卷也トイ
 ヘルハ心ハ石ニアラザレハ可轉ト云フニハナラヌス
 チナ物ヂヤナリ席ニアラザレハ可卷ト云フニハナラ
 ススチナ物ヂヤナリ總ジテ也ノ字ヲ用ユルハトヘ
 バ警者ノ路ニ迷ヒテ行サマヨフニ聲ヲカケテ其スヂ
 又ハ物ヲシラセテブレハ溝ナリブレハ田畦ナリト云
 カ如シ其警者ノ心ニ素ヨリ物ノスチクノ別レハ知リ

テ居レ其ヲ以テ今ノ當面ノ物ニアテ、知ルヲナ
 シ得ザルヲバ傍ヨリ其當面ノ物ノスチヲ知ラセテ其
 素ヨリ識リ居レルスチニ合フニシテ知ラセ思ワス
 ルニ多ク用ユルナリ左傳文十七年ニ鹿死不擇音小國
 之事大國也德則其人也不德則其鹿也麋而走險急何能
 擇トイヘルハ大國ガ德ヲ以テアシラハルレバ小國ハ
 其時ハ人ヲシクナリテソレニ向ハニ不德ヲ以テアシ
 ラハルレバ其時ニハ鹿ニナリテ中々ナワクナクテ
 身ノ全キヲ得ルカタヘハシリ赴クベシト云フナリ
 論語ニ君子人歟君子人也ト云ルハ君子人ト云モノニ
 スチガ協フト云フナリイブレニモ餘ノ物ト其スチヲ
 別ニシテ持チテ其スチニ聞人ノ意ヲ紛レヌヤフニシ
 テ引入レテソレヲ言ハントスルニ也ノ字ヲ用ユ易ノ
 繫辭傳ニ是故卦有小大辭有險易辭也者各指其所之ト
 イヘルモ前ニ八卦ト辭トヲナラベ言タルニ後ニハ辭
 ノ一方ヲ舉テ語ルニヘニ聞人ノ紛ラシ思フヲナキヤ

フニトテ、別ニスチヲ立テ引又キ言ハント云、辞也者ト
 書レタルナリ、中庸ニ性道教ヲナラベテ言タル後ニ其
 道バカリニ舉言ス、道也者、須臾不可離也ト云ルモ同ジ
 意味ナリ、古文ノ中ニナラベ言ハザレ也者ヲ用タル
 下アリ、國語ノ中ニ君也者ト書ケルニ、前ニ君臣民トナ
 ラベ言ハザレ也、其旨ハヤハリナラヘ言フ中ニテ引ワ
 ケスチヲ立テ、言タルナリ、論語中ニ、回也賜也ナト云
 ル、並ニ別人ニ引ワケテ、其スチヲ立テオキテ、其ヲ語ル
 コ、ロモチナリ、有顔回者、好學、不幸短命、死矣、今也則亡
 ト云タマヘルハ、昔ハ顔回ト云モノアリテ、學ヲ好ミタ
 ルモノアリタルガ、只今ノ門人ノ内ノスチニテ言フニ
 左様ノモノハナシト云フナリ、詩、召南ニ、無使也、吠ト
 イヘルハ、犬ニテモアレ、フレニモ吠シムルナカラニ
 トセヨト云フナリ、鄘風ニ母也、天只不諒、人只ト云ルヲ
 ハ、前儒ノ注、母ト母ノ字別ナリトイヘル、字學家ノ說ニ
 拘ハリテ、父母ノ母トセリ、然レモフレニテハ、也、天只ト

義通セズ、母也、天只トヨムベシ、コノスチハ、天性ノ通り
 ニテ往バカリトスルナカレト云フニテ、邶風ノ俾也、可
 恣ノ也ト同ジ意ニテ、此スチニテハ、恣ル可シト云フ一
 ナラスコニナルベシト云フコ、口ナリト知ルベシ、後
 世俗語ニ、也ノ字ヲマタトヨム意ニ用ユル下アリ、五朝
 小説ニ、陳氏某性緩ナルモノニテ、何事ニモ己ガ氣ニ入
 ラヌコニアヒテモ也、罷也、罷ト云タル故ニ、陳也、罷ト異
 名ヲ付ケタル下アリ、フレモマタフレデヤメチヤト云
 タル意モチナリ、齊策ニ、甲單將攻狄、往見魯仲子、仲子曰、
 將軍攻狄、不能下也、トイヘルハ、甲單ハ狄ヲ攻テモ、下ス
 下能ハザルスチニナルベシト、察シテ言タル意モチナ
 リ、史記趙括傳ニ、趙王亦以括、母先言、竟不誅也、ト書ケル
 ハ、トウク誅スルコトナラヌヤフノスチニシタリト云
 フコナリ、
 此モ語尾ニ用ユル字ニテ、本邦ノ人ノ言語ニ用ユル處
 ニシテイハバ、ブレノトコロニト云フ氣味ニ、其意ノマ

ワル文字ナリ。凡ソ事ハ、時々刻々ニウツリカワリ往ク
 モノニテ、其場処ト云モノモ、右ノ事ト同ジク定マリテ
 イツマテモウツラヌ場処ト云モノハ、死定シタルモノ
 ヨリ外ニハ無キモノナリ。サレバ、日月ノ運行モ、東ニ出
 タリトスルガ、早クウツリテ天ニ中シ、天ニ中シタルガ
 早クウツリテ西ニ入ルモノナルヲバ、人ヨリシバラク
 其処ヲ散ケテ、東山ノ上トシ、正午トシ、西山ノアチヲト
 シテ、コレヲ指シ云ニテ、人ノ其処ニ見コシテ、其ニ向ケ
 テワザヲナシユキ、又ハ其ニ思ヲ付クル心アテモ立ツ
 ナリ。文字中ノ馬ノ字モ、右ノ如クシバラク其処ヲ設
 ケテ、其ヲ指シ定メテ、外ノ場処ニ混ゼヌヤフニシテ、サ
 テ其処ニシテ、ブレヲ思ハセル為ニ置ク意ナリ。
 結集 女即花ウシト見ツ、グ行スグル男山ニシタテリ
 思へバ、此タテリノ下ニ、馬ノ字アルベキ語勢ナリ。女
 即花ノ名ニヨリテ女トシテ、サテ其女カ男山ト云ニ立
 居テ、何カ待顔ナレバ、我ハブレヲウシト見ナガラ行過

ルト云意ナル故、男山ニシタテリ、其処ニト、場処ヲ指シ
 定メ、見コシヲ付テ後ニ、ウシト見ナガラ、行過ルト云意
 モチモ付ケテ言テモ、其ワケガ聞ユルナリ。
 同集 又レテホス山路ノ菊ノ露ノマニイツカ千年ヲ我
 ハヘニケニ、此ケニノ下ニ、馬ノ字アルベキ語勢ナリ。菊
 ノ露ノマト云ヲ向フニ立テ置ニ、ブレヲワタル間ニ、イ
 ツカ千年ヲバ、我ハ經タルゾ、其処ニト云ゴ、口ナル故
 ニ、馬ノ字アルベキ処ナリト云フナリ。
 同集 山カクス春ノカスミグウラメシキイツレ都ノサ
 カヒ成ラニ、此サカヒト云フ下ニ、馬ノ字ノコ、ロモチア
 ルベシ、其カスミノ内ニ入りテ見タラニハ、彼処ヨリ
 ノ先キカ、都ノ境ト云処ガ、其処ニアルベキガ、今此望ム
 処ニテハ、其処ヲバイツレフワカレヌ、フニ見ルナリ
 ト云フ故ニ、サカヒノ下ニ、馬ノ字アルベシト云フコト
 ナリ。
 詩唐風ニ、獨行、踽々、豈無他人、不如我同父、嗟、行之人、胡不

比焉人無兄弟胡不飲焉トイヘルハ獨行ノ踽々タル人
 ハ他人ノ同行スルカ無キト云ニアラザレト我同父兄
 弟ノ如クニユカ又故ニ此踽々タルヲスルナリト云ナ
 ラニガフレハ大ナル心得相違ナリ其道ヅレノ人ヲバ
 何トテ我ヲ兄弟ニ比セザルヤ其人ニモ兄弟アルベキ
 ニ何トテツレニヒトシク思ヒクレザルゾトイヘト云
 一ニ云胡不比焉胡不飲焉ト云ナリ衛風ニ反是不思
 亦己焉哉トイヘルハ已前ニ共ニ誓タルヲ其夫ハ今
 ノ行ノフレニ反シタルヲ思ハズト怨ニサテ又反
 シタルヲ思ハズト思ヒタラバ我モコレキリニシテ
 其処ニヤノルヲニスルヲニセニカト云ナリ魯語ニ
 昭公ガ楚ノ師ヲ出シテ魯ヲ伐ニトイヘルニ榮成伯カ
 對ニ若得楚師以伐魯魯既不違夙之取ト下也必用命焉守
 必固矣若楚之克魯諸姫不獲闕焉而况君乎トイヘルハ
 昭公楚ノ師ヲ出スヲ許サレテ魯ヲ伐給ハ魯ノ士
 民ハ季孫カ下ヲ取ルサヘ違乱十ク從タリシヲナレバ

必ス昭公ノ旨ニハ從ハズシテ季孫ガ命ヲ其処ニ用ヒ
 テ守ルヲ必ズ固カルベシ若楚ガ魯ニ克タルニシテハ
 晋衛等ノ諸ノ姫氏ノ國ハ楚ノ取リタル魯へ手ザシモ
 ナルマシマシテ君ニ魯國ヲワタスヲアルベキヤト云
 ナリ齊語ニ桓公知天下諸侯多與己也故又大施忠焉
 ト云ルハ其己ニ與スル心ノアル処ヘ又大ニ忠ナルシ
 カタヲ施セリト云ナリ左傳僖二十二年ニ春伐邾取
 須句及其君焉禮也ト云ルハ須句ハ國ノ名ナリ去年邾
 人カ須句ヲ滅シテ須句子ガ魯ニ來奔シ居タルヲ此度
 邾ヲ伐テ其邾ガ取リタル須句ヲ魯へ取リテサテ來奔
 シテ居タリシ須句子ヲ其取リタル処ヘカエシタリト
 云ナリ東周策ニ君謂景翠曰公爵為執珪官為柱國戰
 而勝則無加焉矣不勝則死不如背秦援宜陽ト云ルハ周
 累ガ東周ノ君ニオシヘテ楚ノ景翠ガ韓ノ宜陽ヲ秦ヨ
 リ攻ルヲ救ニ出居レルニ謂ハスル辭ナリ爵ハ執珪官
 ハ柱國ニテ戰而勝タルナラバ其貴ガ上ニハ賞ノ加ヘ

方アルニシト云フナリ。莊子道遠遊ニ之、人也之、德將旁
 礪萬物以為一世、斲乎亂孰故々焉、以天下為事之人也ト
 イヘルハ、サヤフナル人、サヤフナル徳ハ、萬物ヲ一所ニ
 カラゲテ、一世ノ夕メニ少シハ亂ル、トモアルヤフニ
 ト求メイノルホドノナレバ、何故ニ其處ニ滯リ、敵々
 焉トシテ、天下ヲ以テ己ガツトムベキトスル人、ソ
 ンヤト云フナリ、此弊々焉ト云馬ノ字ヲ置ケル意ハ、コ
 チラニ別ニノビテ來ルベキ路アルニ、ソレニヨラスジ
 テ、アチラノ其處ニ弊々焉トシテ、アレラセニヤト云意
 アリテ、馬ノ字ヲ用タルナリ、又覆杯水於坳堂之上、則芥
 為之舟、置杯焉則膠、トイヘルハ、杯水ノ少シバカリナル
 フ、クボミアアル堂ノ上ニ覆セバ、芥ハソレガ舟トナレ、
 杯ヲバ其處ニ置ケバ、アレナレバ、下ニ引ツクトニナル
 ト云フナリ、コレモフノ杯水ヲクツガヘシタル處ス
 工見コマセテ、馬ト云タルナリ、齊物論ニ、南郭子綦隱几
 而坐、仰天而噓、嗒焉似喪其耦、トイヘルハ、其几ニモタル

坐シ、天ニ仰ギテ、口ヲアキタル所カ、何トヤラニア、コ
 リトアルヤフスガ、其處ニアリテ、其對シ居ノタル相手
 フ、見失ヒタルヤフスニアリタリト云フナリ、世説雅量
 ニ、管中散ガ刑ニ臨ミテ、廣陵散ヲ彈ジテ、此曲ハ今ニテ
 絶ユト云ヒナドシタ雅量アリシヲ、當時大學生三千人
 ガ命乞ヲセシニ、許サバリシトテ、文王亦尋悔焉、ト書ケ
 リ、コレモ其許サバリシ其處ノヲテ、悔思ワレシト云フ
 ナリ、又支道林ガ還東時、賢並送於征虜亭、蔡子叔前至、坐
 近林、公謝萬石後來、坐遠、蔡暫起、謝移就其處、蔡還見謝在
 焉、因合褥、舉謝擲地、自復坐、ト云シハ、蔡ガ起タル跡へ、謝
 ガ移リ來リテ坐シ居タルヲ、蔡還リ、謝ガ其處ニ在ルヲ
 見テ、謝ガ坐シタルヲ、其褥夕チニ持アゲテ、地へホリツ
 ケタルトナリ。

省矣也焉等文字法

凡ソ句下ニアルベキ文字矣也焉并ニ乎耶ノ類ヲ省ク

ニハ先第一ニ心得ベキコトアリ。文字ノ事ヲ知ラザルモノハ、文字ハ唯讀ミテ其物事ノ大畧ヲ識リテ、フレヲ己ガ心ノ目算ニ通ワシテ、知ルコトノミナリト思ヘリ。右ノ如クニ心得タル故ニ、一切ノ矣也焉等ノ字ヲモ、皆コレヲ稱シテ置字トイヒ、唯其飾リニ置クモノノヤフニ思ヘリ。此大ナル心得ノ相違ナルコトニテ、右ノ如ク心得タル故ニ、後世ハ餘程スグレタル人モ、書ヲ讀ムニハ、其大義ヲ領スレバ足レリト云論ナドヲモ、言出スコトニナリ、フレヲ一豪傑ノナスベキ仕カタト思ヒ、フレヨリ細心ニ書ヲ讀ムヲバ、嘲リテ、文字章句ノ儒ナト言ナシテ、愚ナル仕業ノ様ニ謂フコトモ出來リタルコトニナレリ。此ハ全體ノワケニ昧久、且己ガワザノ所詮左様ノ吟味ニトドキ難ギ故ニ、強テ右ノ如クニ在ゲテ言取リテ、私ノ勝手ニ自慰シテ言ヘル偏見ノ説ナリト思フベシ。古人ノ其書置タル文字ガ、左様ニアラクヨシテ聞ユル事ナラバ、其無用ノ文字ヲイラヌコトニ置クベキヤフナシ、其無

用ト見ユル文字ヲ、餘計アツメテ組ミ立テ、其内ニ其旨ヲ寓セルモノナレバ、其ヲノコラス、解ホドカザレバ、其中ニ寓シタル物ハ、取出サレ、又道理ナリ、フレヲ一ニ解ホドクコトヲ、面働ナルコトニ思ヒテ、フツホフニテ見テ取リテ、此ハ本抵此事ヲイヘルナルベシト見取リテ、定メントスルハ、アテ推ト云モノニテ、甚タアブナキナリ。韓非子説難ニ、隣家ノ父ヲ盜賊ハ、是人ナラント疑ヒタレバ、其人ノスルトコロ言フトコロガ、トカク其盜賊ニアタリタルモノ、スルトコロ言トコロナリト、聞ナシタルコトヲ言ヘルコトアリ、見取リテ定ムルニハ、十ガ五六ハ、皆此弊アルコトヲ思フベシ。サレバ本義ニ通ズルコトヲ事トシテ、文字章句ヲ事トセズト云ヘルハ、何モノガ言タルニモセヨ、身勝手ニカセタルシカタニテ、細ニ思ハサルノ過ナリト思フベキコトナリ。サレバ讀書ハ、其言ヘル物事ヲ識リテ、ソレヲ己ガ心ノ目算ニ通ハシテ、知ルコトナリト心得ルコト、甚シキヒガ事ナリ、尤文字ニ書タ

ルハ、並ニ皆當時ノ其言語ノ通りヲ、文字ニウツシ取リ
 タルモノニテ、即言語ノ通りナリ。言語ニハ、ウツレヲ聞人
 ノ心ニ、其言ヲ物事ノ大小遠近緩急ヲ聞取ラセントス
 ルガ為ニ、其語勢ニ、或ハ言切リ言ツ、久或ハ外ヘノ久
 或ハ内ニモチ、様々ニシテ、其神氣ノハ、ツミヲウツシテ
 ツレヲ言フコトニテ、此ハ、ツミハカリニヨリテ、其語意ノ
 聞ユルトコロニ、活ルト死ルトノ差別ヲ生スルコトナリ
 一切ノ語助ハ、並ニ此ハ、ツミヲウツス入用ニテ、一字ニ
 テモ語助ヲ加フレバ、緩ミテ外トナリ、省ケハ急ニナリ
 テ内トナル、内トナルトハ、聞ク人ノ心ニツレヲ持テ、今
 其心ノ當面ニツケテ、離レサセズモ、夕サシトスル勢アル
 ナリ、外トナルトハ、當面ヨリハ、一段打コシテ、遠サカリ
 テ、表則準的ニ立ツル類トナル、譬バ向フニケテ立ル
 ハ、射ノ的ノ如シ、内ニヌルハ、弓ト矢ヲ内ノ方ニモチテ
 最中ツレヲ張リテ保チ持ツガ如シ、故ニ九語下ニ、矣若
 也馬アルハ、並ニ其語ヲバ、此ニヨリテ立テ、向フニケ

テ立テ、アトノ意ノ趣クトコロノアテヲトルトコロト
 スルガタメノ用意ナリト思ヒ、助字ナキハ、内ニツレヲ
 專ラニシテ持タス辞ナリト思フヘシ
 論語ニ、賜也始可與言詩、已矣、告諸往、而知來者ト云給ル
 此已矣ヨリ上ハ、向フノ標的トシテ、ノケテ立ルコト、口
 ナリ、知來者ハ、聞人コレヲ心ニ持テ、其標的ニシテ立タ
 ルトコロヘ、思ヒ合サスル意モチナリ
 子夏問孝子曰、色難、有事弟子服其勞、有酒食先生饌、曾是
 以為孝乎、此饌ノ下ニ馬ノ字アリテ、ヨキ処ナレト、全体
 ノ語勢ガ、顔色ハイヤニ思ヒナリ、其勞ニ服シ、先生ニ
 饌スルナドノシカタノアルコトナルガ、コレマデサヤフ
 ノコトヲモ孝トイワル、ト思ヘルカト言給ヒタル意ナ
 ル故ニ、先生饌已上ノ數語ハ、其事ヲ今十分ニツレヲ持
 タセ思ハスル語意ナル故ニ、馬ノ字ハ用ラズシテ省
 ケルナリ
 子游問孝子曰、今之孝者、是謂能養、至於犬馬、皆能有養、不

乎

敬何以别乎。此能養ノ下ニ也。ノ字アルベキニ似タル処
 ナリ。サレモ能養ト孝ト别ナルワケ。未ワカレザル故ニ
 也。ノ字ヲ省ケルナリ。餘ハ此ヲ以テ類推スベシ。
 此ハ問ノ辞ニ用ユル字ナリ。乎。邪。歟。ノ類。並ニ皆問ノ辞
 ニ用ユル類ナルガ。其問ノ意モ子ニ深淺ノ差別アリテ
 乎ノ字ハ。問ノ意淺キニ用ユ。問ノ内ニ一カマエノ内ツ
 ラアリテ。ソレヘ向フノ引ツキタルコトヲ内ニモ子テ。此
 内ノ処ニトマルナラズヤト云フキ三十ナリ。意淺ト云ハ
 此問ノ辞ニテ。向フノコトエテ然リト云テ。先ツ取リオ
 キテ。サテ其ニツケテ。向フガ其筋ニチガヒアルヲ推シ
 言フカ。又ハ其ナレバ。ナゼニ斯ハセザルブナト云フ辞
 ヲ。アトヨリカケントテ。先ツ向フヲ捉フルタメバカリ
 ニ問フ意ナル故。淺ト云フナリ。
 古今集カゲロフノフレカアラヌカ春雨ノフルヒトナレ
 袖グヌレヌル。此フレカアラヌカノカ。乎ノ字ニアタ
 ルベシ。蜻蛉ハ枕辞ナリ。フレカアラヌカトハ。半ハワス

レ半ハオホエタルヲ。春雨ノ至テホフク。アルカナキカ
 ノヤフナルニタトヘテイヘルナリ。フルヒトナレバト
 云ルハ。雨ル日トナレバト云フト。人ニフルサレタル人
 ナレバト云テ。モチラセテイヘルナリ。サレバ。此カノ字
 ノ意アルカト思フガ。フレナルカ。アラヌト思フガ。フレ
 ナルカト。タビ物ノ外カワノ処バカリヲ。チヨト引カケ
 トリトメテ付ケントスルコトナリ。
 同集吹マヨフ野風ヲサム三秋ハギノウツリモユクカ
 人ノ心ノトイヘル。ユクカノカ。乎ノ字ナルベシ。秋ハギ
 ノト云ルハ。秋ハギノ如クニト云ハニガ如シ。彼ニ思ヒ
 ヲカケ。此ニ思ヒラカケテ。心多ク迷フ故ニ。我ニハ心ガ次
 第ニハナレテ。ウツリユケルト思フガ。フレナルカトイ
 ヘル意ナリ。
 又。ソノ雲ノヨソニモ人ノ成行カサスカニ目ニハ見
 ニルモノカラトイヘル。成行カノカモ。乎ノ字ナルベシ。
 サスガニトハ。サフハ云ツ。ヤハリト云フキ三十ナリ。我

ハ忘レヤラズシテ其人ノ面カゲハ我目ニ常ニ見ユル
 モノナリニ其人ノ身ハ天雲ノアナタニナリユク故ニ
 遠ニ遠ザカリテ來ルノナラザルカ我ハサヤフニ思
 フガフレナルカト云意ナリ此二首ノカノ字ノ餘意ニ
 サヤフナレハ是非モナシト云フ氣味ヲクメルナリ
 ト知ルベシ
 詩鄭風ニ女曰觀乎士曰既且且往觀乎トイヘルハ其語
 勢右ニイヘルトハ少シカワリアリテ湊消ノ水ノ景色
 ヲ見物セント思フガサヤフニナルカト女ノイヘルニ
 士ノコトフルニ既ニセリト云フハソレニハヨラズシ
 テ往キテ見物スルノト云フニ身ヲ以テナルノデアラ
 フカト云氣味ニテ昔ノ淺キ処ハ後世ノ使ヒ方ト同シ
 ケレハ語勢ハ少シ入レコニテイヘリ論語ニ學而時習
 之不亦悦乎ト云給ヘルハコレモ亦悦バニナリトハ
 イハレザルカト云フニテ其餘意ニ悦フヘキト思ハ
 バナゼニ學ベバ悦ブアリト思ハザルブト云フニ夕

メノ引カケナリ楚語ニ有一不義猶敗國家今壹五六而
 必欲用之不亦難乎トイヘルハ一ノ不義ノ人ヲ用フル
 ニアリテモ國家ヲヤブルノナルニ今ハ五六ノ不義ヲ
 一ツニカラゲテ持タル人ヲ必スソレヲ用ニト欲セ
 一ハコレモヤリニクキト云ナラズヤト云コ口ナ
 リ晉語ニ梗陽人有獄將不勝請納賂於魏獻子獻子將許
 之間沒謂叔寬曰與子諫乎吾主以不賄聞於諸侯今以梗
 陽之賄歿之不可トイヘル此乎ノ字詩ノ觀乎トイヘル
 乎ノ字ニ似タル語勢ニテ與子諫ムルノニセニト思フ
 ガサヤフニナルベキカト云フ意ナリ齊策ニ孟嘗君出
 記問門下諸客誰習計會能為文叔責於薛者乎トイヘル
 ハ孟嘗君ヨリ張り紙ヲ出シテ其紙上ノ文言ニテ問ヘ
 ルニ門下諸客ノ内ニ誰カ算ヲ能クシテ薛ノ民ヘ借シ
 置タル金ノ未入ヲ請取ルノラセニモノゴト云フ意ニ
 テ此叔責ノノニ誰ト云モノガ此任ニナルデアラフブ
 ト云フコ口ニテ乎ノ字アリ莊子讓王篇ニ孔子謂顏

回曰。回來。家貧。居卑。胡不仕乎。トハ。家ハ貧シ。居場処ハ卑
キニ。ナセ仕へ。又ト云フニ。ナツテアル。グト云給へル。意
ナリ。世説ニ。孫子。荆少時。欲隱。語王。武子。當枕石漱流。誤曰。
漱石枕流。王曰。流可枕。石可漱乎。ト云ル。手ノ字モ。流ハ枕
ニスレバ。ナリ。石モ漱ク。ニスレバ。ナル。ト云ハ。ハルカ
ト云フコ。口モナリ。

耶

此モ多ク問辭ニ用ユレ。凡。全体ハ物ノナリ來リタルヲ
見ルニ付ケテ。其内ワラノフレニナリ來リサマヲ推シ
テ形容シ言フ辭ノ尾ニ用ユル字ナル故ニ。其時ノ語勢
ノ引ハナシニヨリテ。自カラ問ノ辭ニナレルナリ。
古今集。秋ノ野ノ草ノ袂カ花ス、キボニ出テマ子ク袖ト
見ユラニ。此草ノ袂カノカ。耶ノ字ニアタル。ナリ。秋ノ
野ノ諸草ノ内ニテ。人袂ト云フニアタル。ナリ。ナリ。ア
ノヤフニ見ユル。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。
後撰。コリス。ノ浦ノ白浪立出テヨル。ホドモナク歸ル
バカリカ。此ハカリカノカモ。耶ノ字ニアタル。ナリ。ナリ。

ズマノ浦ノ白浪ナレバ。折角立出タレ。凡。岸邊ニヨルホ
ドモナク。打アカラズシテ。歸ルバカリノ。様ニユク。ナ
ルカト云フナリ。

古今集。心サシ深クソメテシ折ケレバ消アヘ。又雪ノ花ト
三ユルカ。此モ上ニ同シ。志ヲ深クソメテ折ケレバ。雪ノ
消アヘ。又モ花ト見ユルヤフニユソ。ナリ。ナリ。ナリ。ナリ。
漢ノ李廣カ石ヲ虎ト見テ。矢ヲ射タリシニ。石モ虎ニナ
リテ。矢ヲ飲ミタルニ比シテヨメルナルベシ。

後撰。秋風ノ吹上ニ立テル白菊ハ花カアラ。又カ浪ノヨ
スルカ。此モ上ニ同シ。花カアラ。又カハ。花手非耶ナリ。浪
ノヨスルニヨリテ。ア。如クニ見ユルヤフニ。往ク。ニ
ナルカト云意ニテ。耶ノ字ナリ。

老子ニ。非。以其無私耶。故能成其私。トイヘル。耶ノ字。問ノ
意ニアラズシテ。タ。其奥ノ方ノ來ル筋ヲ付ケテ言タ
ルニテ。其私ナシト云フニユク筋ニアル故ニ。能ク其私
ヲ成セルニ非ズヤト云フナリ。史記趙堯傳ニ。非。為趙王

年少而戚夫人與呂后有卻邪備萬歲之後而趙王不能自
全乎トイヘルモ有卻ト云ヤフナルトニユク筋アルカ
タメニト云フトニ元問ノ辞ニアラズシテタ、辞ヲオ
ホロニシテ推シタルヲアレナリニ立テ言タルニシ
テ置タル字ナリ易繫辞傳ニ乾坤其易之經邪又云乾坤
其易之門邪ト云ルモ邪揣ヲ以テアテ言タルコ、口
モ千ナリ乾坤ノ二卦ノ内ニハ自カラ坤乾ノ象コモリ
タル故ニ易之經メルト云筋ニナルカ易ノ出クル門
ニナルト云筋ニユクカナリ莊子逍遙遊ニ野馬也塵
埃也生物之以息相吹也天之蒼々其正色邪其遠而無所
至極邪其視下亦若是則已矣トイヘルハ野馬塵埃ノ類
ノ此地面上ニ動キテ息サルハ天地間ニアル生物ノ
息ヲ以テ相吹ハナリ相吹サレバ塵埃ノ如キモノ滿ア
ルカアリ天ノ蒼々ト見ユルハ正色ナリト云フニナル
カ遠而至極スル所ナリト云フニナルカ其至高ノ
處ヨリ下ヲ視タルモ亦蒼々ト見ユベシトセハ先ヅツ

歟

レニテヨイナリ左傳ノ中ニハ耶ヲ用タル處タ
タ一處アルカト覺ユ國語ニハ全ク見ヘス畢竟紀事
テニテ邪揣ノ辞ノ如キ入口ニタル語勢不書クトニ及
バ又故ナルベシ
此ハ其中ノ實ヲ推シ定メントスル意ニテ問フ辞ニ用
ユル字ナリ半ハ推シ定メタル意ニテ次ノ語ニ直ニフ
レニ極メ置テ言フ辞ニモカ、ルカアリ本邦ノ古語此
一類セルアレモ少シ輕ク使ヘリ
古今集 天ノ原フリサケ見レハ春日ナル三笠ノ山ニ出シ
月カモ此カモノカ歟ノ字ノ旨ト同ジトニテ少シ輕シ
三笠山ニ出シ月ト云フニナルカニアルカナリ
幾許ノ田ヲワクレバカ郭公シテノ田長ヲ朝ナク
ヨブ此ワクレバカノカ歟ノ字ノ旨ト同ジトニテ輕シ
後拾遺ニテトイヒシ秋モ半ニナリ又ルヲタノメカ置シ
露ハイカニズ此ハ待テトイヘモ聞ズ顔ニテ秋モ半ニ
ナリ又ルニ此方ヨリタノミタルカモナキ露ハ何ノ夕

メニオクコニナルコニナルニアタルコト云コ、ロニ
 テ、タノメカノカ、歟ノ輕キモノナリ。
 詩、殷頌ニ、猗與那與、トイヘルアリ、此ハ其ヤフニ道ノワ
 クコトニナルコニアタルカ、マワリクテフレニナルコニ
 ナルカト云コ、ロニテ、殷ノ先祖ヲ祭ルニ、樂ヲ奏セル
 トコロカ、我ヲ綏ニジテ成ヲ思ハシムルコトニアタルコトニ
 ナルカト云コ、ロナリ、禮、檀弓ニ、孔子之喪、有自燕來觀
 者、舍於子夏氏、子夏曰、聖人之葬、人與人之葬、聖人也、子何
 觀焉、ト云ルハ、聖人ノ人ヲ葬ルト云コトニナルコトニアタ
 レカ、其故ニ觀ニトナレバ、尤ナルカ、此ハ人ノ聖人ヲ葬
 ルナレバ、何ヲ觀ニトシテ來レルコト云ルナリ、論語ニ、
 求之與抑與之與、トイヘルモ、ソレヲ求メタリト云コトニ
 ナルコトニナルコトニアタルカ、マタハフレヲ與ヘタリト云
 コトニナルコトニナリテ、アタルカナリ、莊子、因、兩問、景曰、曩
 子行、今子止、曩子坐、今子起、何其無特操與、トイヘルハ、史
 記、樊噲傳ニ、始、陛下與臣等起、豐沛、定天下、何其壯也、トイ

ヘルトハ、似タル語勢ナレ、臣、旨大ナル相違ナリ、天下ヲ
 定メニト思ヒ立テ、身ヲハゲマシ事ヲツトメ給シコトハ、
 何トアル御心入ニテ、其時ノ様子ガ内氣充實シテ、外ニ
 張リテ壯ニナリシヤト云キニテ、其時ノ心入ノスチ
 ノタチタルトコロヲ、顧ミ思ハセニトテ、推シ問ヘルナ
 リ、此何其無特操與ハ、景ハ己ガ意ヲ以テ其行止坐起ヲ
 スルニ非ザルコトヲ、罔、兩モ能ク識リテノ問トシ作レル
 故ニ、何トテ其行ガ止トナリ、坐ガ起トナリテオレバ、別
 ニハナレテカヤフニスルコト云フ、トリキマリタル操
 ナキコトニナルコトニアタルコト云コ、ロナリ、サレ故ニ、
 景ガ答ニ、吾有待、而然者邪、トイヘルナリ、又云、不知、周之
 夢、為蝴蝶、與蝴蝶、之夢、為周、與周、之夢、為蝴蝶、ト
 云コトニナルコトニアタルカ、蝴蝶、之夢、為周、ト云コトニナルコト
 ニアタルカト云コトナリ、又云、栩栩、然、蝴蝶、也、自喻適、志、與
 不知、周也、トイヘルハ、自カラ己ガ志ニ適セルヲ、心ニ入
 レテ思ヒシト云コトニナルコトニナルコトニアタルカ、身ハ周

ナリト云フヲ知ラサリキト云フナリ。齊策ニ老子ノ文ヲ引テ曰、雖貴必以賤為本、雖高必以下為基、是以侯王稱孤寡不穀、是其賤之本、與非夫トイヘリ。今ノ老子ノ文ニハ、自謂孤寡不穀、此其以賤為本耶、非乎トアリ。齊策ノ文ノ意ニテハ、是ヤフニアルハ、其意ニ賤ヲ本トセルニナルトニナルニアルトナルカ、是説ハ非ナルトニアルタルカト云フトナル。今ノ老子ノ文ノ意ニテハ、自カラ右ヤフニ言成セル此意ハ、其旨ニ賤ヲ以テ本トセルニアタルトニナリテタルトカ、フウデハナキトカト云キ三十リ、齊策ノ文ノ通りニテハ、貴ヲ賤ノ本トスルトニ人ヨリ引取リテ見ルトニシテ言ヘルナリ。今ノ老子ノ文ニテハ、其自稱ノ意ノオコリヲ推シテ思フス意持トリ、齊策此下ニ、孤寡者人之困賤下位也、而侯王以自謂豈非下人而尊貴士、與トイヘルモ、人ニ下リテ士ヲ尊貴ニスルト云フニ非ズト云フニナルニナリアタルカト云フナリ。後世ノ文ニモ推シズイニシテイフニ用ユ、史記

夫

曹相國世家ニ、惠帝恠相國不治事、以為豈少朕與トイヘルモ、曹ガアノヤフニアルハ、朕ヲ少キ故ニ、目モキカヌ故ニ、事ヲツトムルニモ足ラズト云コ、口モチニテ、アノ如クニナルトニナルニアタルカト云フニテ、即チ推シズイノ未決ノ辞ナリ。宋ノ蘇軾ガ鼂錯論ニ、其中程ニテハ、錯カ誅セラレタルワケヲ、已欲求其名安所逃其患ト云オキテ、結尾ニ至テハ、錯之所以自全者、乃其所以自禍與ト書ケリ。始ノハ蘇ハ其ワケヲ十分ニ知リ居ル言カタニテ、其ツマリ処ニテ、此未決ノ辞ニセルハ、文理ノツマラヌ書カタニテ、畢竟與ノ字ヲ用タルモ、唯古人ノ口真似ニテ、拍子ノ三ニテ書テ、其實ハ古人ノ辞意ニ昧キ故ナリ。唐宋已後ハ、名賢ノ文ニモ、此類甚多シ、サレド古文ニ似セザル文ニハ、蘇ト雖モ書ヌトナリ。要スルニ唐宋已後ノ文ハ、皆法トスルニ足ラヌト多シト心得、此モ語尾ニ用ユル夫字ニテ、疑辞若ハ歎辞ニ用ユ、此字意本其物ガラヌ、其已前ノ此方ノ場処ヨリ、遙ナル向フ

夫

ノ先ニ立チアルニシテ、ソレニアテ、思フコトニシタル
 コ、ロモチニ用ユルナリ。
古今集 老又トテナドカ我身ヲセメキケン老ズハ今日ニ
 アハマシモノカ、此モノカノカノ字、夫ノ字ニアタルベ
 シ。今日ノ場処ヨリ、已前ノ場処ニテノ向フノ内ニ立ア
 ルモノニシテ、其ニアテ、思ワスルコトニシテ云ルナリ
古今集 我袖ニマタキ時雨ノフリアルハ君ガ心ニ秋ヤキ
 スラニ、此又ラニノ下ニ、夫ノ字ノアル氣味ナリ。耶ノ字
 ノ、向ノ内ニテノナリテ來ザラ推シ言フトハ、少シカ
 ワリテ、向フノ内ニスワリタル処ヲ、アテ、言フキミナ
 リ。耶ハ動キ、夫ハ静ナリト心得ヘシ。
 禮檀弓ニ、魯人有朝祥而暮歌者、子路笑之。夫子曰、由爾責
 於人、終無已。夫三年之喪、亦已久矣。夫トアル。此上下ノ夫
 ノ字、上ノ一ツハ、子路ガ心根ノ立カタニアテ、指シ、下
 ノ一ツハ、ツレヲ向フノ心ノ立カタトシテ、指シ、思ワセ
 給ヘル心持ナリ。晉語ニ、靡笄之役、卻獻子見公曰、子之力

也。夫トイヘルハ、靡笄ノ合戦ニ、晉ノ軍勝ニナリテ歸リ
 テ、卻獻子ガ晉公ニ見ヘシニ、子ガ力ニヨリテナルコトカ
 ノコトハト云フコトニテ、乃チ靡笄ノ勝ノ様子アリシヲ
 向フニ立アルニシテ、フレニアテ、サシテ夫ト云ルナ
 リ。莊子逍遙遊ニ、今子有、五石之瓠、何不慮以為大樽、而浮
 乎江湖、而憂其瓠落無所容、則夫子猶有蓬之心也。夫トイ
 ヘル、其サマヲ其心ノ内ニアルニシテ、思ヒテ、指スコ、
 口ナリ。太宗師ニ、天無私覆、地無私載、天地豈私貪我哉。求
 其為之者、而不得也。然而至此極者、命也。夫ト云ル、天地ニ
 私ノ覆載ナキカラハ、私ニ我ヲ貪フスベケニヤ。其私ニ
 スルコトヲスルモノヲ求メテモ得ヌト云ホドノコトナル
 ベシ。シカルニ我此貪ノ極ニ至レルハ、命也ト云フコトニ
 アタルコトカ。其アチラノ内ニアルコトニテ、コチラニサヤ
 フニナルコトナラニト云コ、口ナリ。後世ノ文、此夫字ヲ
 歎、辭疑辭ニ使フコトハ、率皆古語ノ語勢ニ似ヨリタル處
 ニテモ、用ユルコトアレ氏、常トシテ用ユルコトハ、多ク見ヘ

哉

此モ歎辭ニ用ユル字ナレ氏乎夫等ヨリハ其意味コ三
 入リタルキニアルナリ其故ハ大抵人ノ物事ヲ取ア
 ツカフ道ノアルトコロニ常量ノ度アルモノナルガ偶
 其物若事人其常量ノツモリノ外へハツレ往クナリ
 リユクナリアルニハ並ニ此哉ノ字ヲ着ケテ言フヲ辭
 トスルナリ
古今集 アカナクニマダキモ月ノカクルカ山ノ端ニゲ
十六 テ入レズモアラナシ此カノ字哉ニアタルベシマダ入
 ルマジキト思フ常量ノ外へハツレ往クナリテカ
 クルカイト云フキニナリ
古今集 アナ戀シ今モ見テシカ山カツノ垣ホニサケルヤ
 マトナデシコ此見テシカノカ哉ニアタルベシ戀シト
 思フアマリガムリナルナガエ今モ見タシト思フコ
 コロニナリ往クナリテユクワイト云フキニナリ
 檀弓ニ子思ノ母ヲ葬ントセラレシニ柳若謂子思曰子

聖人之後也四方於子子觀禮子蓋慎諾子思曰吾何慎哉
 トイヘル哉字ハ柳若ガ慎メトイヘル心アタリノ子
 思ノ覺悟ノ度量ノ外ニナリ往キタルヲ推シテ尋問ワ
 ル意持ナリ又云子蒲卒哭者呼滅子臯曰若是野哉哭
 者改之トイヘル哉ノ字易ニ大哉乾元至哉坤元又ハ論
 語ニ善哉問檀弓ニ美哉輪ナド云ルト同ジ意持ニテ並
 ニ世間ノ野ナリト云フニアタルナリテユカフカ
 イ大ト云フニアタルナリテユカフカイト云フ
 ニテコレモ自分ノ極メ言フニハ打コシテオヤケ
 ノ言ニシテ推アテイヘルコトナリ檀弓ニ人豈有
 非之者哉ハ世ノ人ノ見ル処ニテモ此事ノケ様ニアル
 ニソレヲ非トスルモノ有リト云ヤフナルヲハツレ
 テユカフカイ往マジト云フナリ又成子高ガ吾縱生
 無益於人吾可以死害於人乎哉ハコレニテハ死ヲ以テ
 人ニ害アルヲニセラルハト云ヤフナルヲニ所存ヲ
 付クルヲニ往カフカイト云フニナリ乎ハト云ヤフナ

ルト云フフニ云此乎ノ字ハ上ノ可ノ字ニテニ屬シ
哉ハ吾ノ字ヨリカ、ル意持ナリ上ニ引タル子路朝祥
暮歌ノ人ヲ笑ヘルヲ夫子ノトガノ給ヘル辞ノアトニ
子路出夫子曰又多乎哉踰月則善也ト云タマヘルハ三
年ノ喪ノ上ニ又多日コラヘヨト云ヤフナルフニユカ
フカイ月ヲマダゲタラバ善カラニト云タマヘル乎
哉モ同ジコ、ロモ千ナリ晋語ニ厲公ノ鄭ヲ伐ニトセ
シヌ范文子ハ欲セズシテ諸侯カツク故ニ晋ニ憂多シ
ト云タリシニ卻至曰然則王者多憂乎文子曰我王者也
乎哉夫王者成其德而遠人以其方賄歸之故無憂今我寡
德而求王者之功故多憂トイヘル此我王者也乎哉ハ我
ハ王者也ト云ヤフナルフニ往カフト思ヘルカイツレ
ハ卻カ心得ノ相違ナリト云フキニ云此ノ如クニイ
ヘルナリ、莊子逍遙遊ニ今子有大樹患其無用何不樹之
於無何有之鄉ト云ヘル下ニ不夭斤斧物無害者無所可
用安所困苦哉トイヘルハ左様ニモアリタラバトコラ

困苦スルトコロト云フカアルトニ往カフゾイト云
「ナリ、齊物論ニ雖有神禹且不能知吾獨且奈何哉トイ
ヘル」ト神禹カアリテモ知ルト能ハズト云ホドノナ
ルニ吾獨衆ニヌケテモ、マアナシトシテ知ルトニユカ
フゾイナリ、齊策ニ若乃得去不肖者而為賢者狗豈特攫
其腓而噬之耳哉トイヘルハ不肖ナル者ヲノキテ賢者
ニカハル、狗トナルトヲ得ラル、ナラハ左様ニアル
ニハ其腓ヲツカミテフレヲカミツクカ其ヌチナリト
云ギリニユカフカイト云フフニ云其ツモリカ其外ヘ
モ出ルコヲツモリニシテ其外ヘ出ヌカフモリノ外ト
ナル故ニ亦哉ノ字ヲ以テコレヲイヘルナリ、論語ニ觚
不觚觚哉觚哉ト云タマヘル哉モサナケレハナラヌト
ニ極マリタルトガ外ニナリテ往クヲ云フ氣味ニ以テ
觚哉ナリ、即チ觚ト稱スルトニ叶フニ往カフカイト云
コ、ロナリ、左傳哀十六年ニ諾哉トイヘル語アリ、此モイ
カニモトウケ合レヌトナレト先ヅイカニモ心得タリ

文ニ用ユルモ、皆此心ニテ用ユルナリ故ニ、例ヲ引ニ
 及ハス、又乎ノ字哉ニ似タル使ヒ方、古文ニ間多シ乎ノ
 字ハ、前ニモ言ル如ク、ツレヲ言フ辞ノ内ニ、其象ノ所ア
 ル故ニ、ツレヲ見セテ、イカニモ其通りナリト云答辞ヲ
 取ル意ニ用ユレバ、問辞トナリ、唯、其事物ノ象ヲ、人ノ意
 想ノ前ニオシ立テ言フバカリナレバ、哉ニ似タル氣味
 トナル、ナリト心得ベシ、論語ニ、煥乎其有文章トハ、煥
 タリト稱スル、ニアタル様子ニテト云、ナリ、魏々乎
 唯天為大モ、巍々タリト稱スル、ニアタル様子ニテト
 云、ナリ、莊子讓王篇ニ、越人三世其君ヲ弑シタルニヨ
 リテ、王ノ子ノ搜コレヲ患テ、丹穴ト云、処ニ逃レタリシ
 ヲサガレ出シテ、ムリニ衆スルニ、王ノ樂ヲ以テセシニ、
 王子搜仰天而呼、曰、君乎君乎、獨不可以舍我乎、トイヘル
 ハ、ヤハリ問辞ノコ、ロニテ、我ヲモ亦弑スルトコロノ
 君トスルヲト云フコ、ロナリ、孟子ニ、孔子ノ流水ヲ觀

ルニ、歎シテ水哉、水哉、トイヒ給ヘリト云ルニテ、乎哉ノ
 別ヲ思ヒ知ルベシ、詩齊風ニ、俟我於著、争而克耳、以素乎
 而尚之、以瓊華乎、而トアル乎、而ノコ、ロハ、我ヲ著ノ処
 ニ俟テ居レリト云、ナリ、タラバ、ツレニハト云コ、
 ロナリ、瓊華ノ下ノ乎、而ハ、上ノ於著ノ下ノ乎、而ヲコ、
 ヘ引ツケテ、思ヒ合サセニトシテ、置キタルモノナリ、莊
 子逍遙遊ニ、歸休、乎君ハ、休美ヲ君ニ歸スル、トアラフ
 ト云、ナリ、此乎ヲカナト讀ムハ、誤リナリ、史記趙世家
 ニ、王夢見處女鼓琴、而歌曰、美人榮々、顏若苕之華、命乎命
 乎、曾無我嬴、トイヘルハ、命ト云ガ、此事デアラフト云コ
 、ロナリ、曾無我嬴、ト一向ニ我ヲバ、スグレタリトスル
 モノガナシト云、ナリ、左傳ニ、南蒯ガ郷人ニ酒ヲ飲シ
 ノタルニ、郷人或歌曰、已乎已乎、非吾黨之士乎、トイヘル
 ハ、モハヤコレギリニテヤメテ、シマフ、デアラス、吾黨
 ノ士ト云モノト云フニハ、筋ノ違フ、ト云、デアラフ
 ト云、ナリ、論語ニ、孔子ノ蘧伯玉ガ使者ノ對ノ善ナル

ヲホメテ使乎使乎ト云ルハ使者ト云ハ此人ノトテア
ラフト云給ヘルコ、ロモ子ナリ又春秋ノ時ノ人語ニ
人名ヲ呼ブニ此乎ノ專ヲツケテイヘルアリ後世ノ人
ハヤハリ其コロノ語ニ人名ノ下ニ也ノ字ヲ置キタル
ト同シヤフナルトニ心得ヘテ差別ヲツケテ讀ボルハ
疎ナルトナリ譬バ論語ニ回也参也ナトアルハ衆門人
ノ中ニテ孔子ヨリ其人ノ内ツラバカリヲ引分ケ立テ
呼ヒタマヒタル意ナリ其人ノ自稱ニ回也賜也ナト云
ルモ同意ナリ参乎吾道一以貫之ト云給ヒシハ本ハ参
吾道一以貫之乎ノ意持ナレト下ニアレバ全ク問ノ辭
トナリ上ヘ引舉レバ参吾今言フトコロヲ其方カ身ニ
トリテハトクト聽クトデアラフト云タマヘルコ、ロ
ナリ晋語ニ卻献子が齊ニ聘シ婦人ニ笑ワレタルヲ怒
リ歸リテ齊ヲ伐ニトヲ請タリシトモ范武子退自朝曰
燹乎吾聞之干人之怒必獲毒焉夫卻子之怒甚矣不逞於
齊必獲諸晋國不得政何以逞怒余將致政焉以成其怒無

以內易外也爾勉從二三子以承君命唯敬乃老トアリ此
ハ范武子カ其子ノ文子名燹ニ卻至カ怒ヲヨクアシラ
ハガレバ事ニヨリテハ却テ晋國ノ乱トナラニトヲ恐
レテ致仕ヲスル故ヲ語り尚亦范文子モ其心得ニテ卻
子ニ觸ル、トナクシテ朝ニ仕フル様ニト言聞ス、トナ
ル故ニ文子カ身ニ取リテトクト聽分ケテ心得ヘキ、ト
故ニ最初ニ燹乎ト呼カケタルナリ又嘗詬カ死セシニ
范宣子カ其子献子名鞅ニ謂テ曰鞅乎昔者吾有嘗詬也
吾朝夕顧焉以相晋國且為吾家今吾觀女也專則不能謀
則無與將若之何トイヘルモ献子カ身ニ取リテノ大切
ナルトニテ思案工夫ヲ付クベキトヲ相談ニ及バント
スル語ナル故ニ最初ニ鞅乎ト呼カケタルナリ参乎モ
曾子ノ大切ナルトトシ聽ベキヲ以テ乎ト云玉ヘルナリ
ヤリ亦己乎ナト云ル乎ノ字ノ意持ナリ莊子人間世ニ
禍重乎地莫之知避己乎己乎臨人以德殆乎殆乎トイヘ
ルモ禍ハ來リテハ地ヨリ重クシテ載セガタカルベキ

ニ孔子ハフレヲ避ルヲ知リ給フテ出来マシケレバ
ヨキクラ井ニ左様ノヲヤノルヲデアラフクト云タ
ルガ已乎已乎ナリ人ノ上ニノリカ、ルニ已ガ徳ヲ以
テセシトセルハ、アブナキヲデアラフクト云タルガ、殆
乎殆乎ナリ、詩秦風ニ於我乎夏屋渠々今也每食無餘于
嗟乎不承權輿トイヘル於我乎ハ彼ヨリ我へアシラフ
アタリデアアラフナレバ、夏屋渠々タルヲ以テスベキハ
ヅナルニ、今ニテハ食ゴトニ餘ナキヤフナルヲ以テア
シラヘリト思ハ、コ、ハカヤフニハアルマシキト云
フ思ニアタルヲナリ、彼ガ最初ノ様子ニ承ケテ事ヲ取
リアツカワサルヲト云フカ、即于嗟乎ナリ、大雅抑篇
ニ、於乎小子未知臧否匪手携之言示之事ナトイヘルハ
コ、ニテハ小子ニテ未知臧否ト云ル、心ヲ付クベキト
ナルベシト云フ氣味ニテ、於乎トイヘルナリ、下ノ於乎
小子告爾奮止トイヘルモ、同じキ三ナリ、周頌ニ於乎不
顯、文王之徳之純假以溢我我其收之トイヘルモ同じコ

コロニテコ、ニテハ、文王ノ徳ノ純ナルヲ大ニイタリ
テ我ノ方へアフレ來レルト云モノナルヲハ、我ニハ其
ニフレヲトリ入レテ、己ガ有トセント思フベキトナリ
ト云フトナリ、関予小子ノ於乎皇考モ同じトナリ、訪落
ノ章ノ於乎悠哉朕未有艾トイヘルハ、コ、ノ處ニテ、カ
ヤフニモ思フトナルベシト云コ、ハ、口ナリ、總ジテ歎辭
ニ用ユル嗟呼嗚呼ノ呼ノ字、並ニ乎ト同音ニテ、ヤハリ
乎ノ字ノ意ナリトカク其辭意ニ其処ヲ一場処トシテ、
其辭音ヲ一ハナ立タルトニシテ、其処ニ別ニ心ヲカマ
エテ持ツコ、ロアルニマワル時ハ、並ニ呼ノ字ヲ加フ
ルナリ、下ノ辭意別ニニ段ニ切ル、トナク其辭意ノツ
ヅキナリナルニハ、嗟ノ字バカリニシテ言フトナリ、夕
トへハ、禮擅弓ニ、黔敖為食於路以待餓者食之ニ、餓者ア
リテ來リタルニ、黔敖左奉食右執飲曰嗟來食トイヘル
如キハ、今眼前ノ餓タル境界ヲ己ガ食ヲ施ス場合ノ各
段ナルニ引取りテ、思ワスコ、口ニテ、嗟トノ三イヘル

幼學集解

十一

諸

ナリ史記孟軻傳ニ嗟呼利誠亂之始也トイヘルハ古今
 トモニ利ヲ争フヨリ亂ノ起ルヲ別ニ心アタリニ其
 始終ヲ持テ居テサテ歎ジタルコ、ロニテ呼ノ字ヲソ
 正テイヘルモノナリ
 此字春秋ノ頃ノ語助ニ用タルト問見ユ後世ニハ絶テ
 用ユルコトナシ字書ニ諸ハ之乎ノ合音ナリト云ルアレ
 疋乎ハ虞韻ニ屬シテ諸ノ韻屬ト少シク異ナレバ之於
 ノ合音ノ意ニ見ルベシ譯シテ言ヘバツレヲ其方ニナ
 シユクト云意アルニ用ユ
 結全集 夏ノ夜ノフスカトスレハ郭公鳴一聲ニアクルシ
 ノ、ノ諸ノ字ノ使ヒ処ト云フニ非ザレ疋使ヒ方ノ氣
 味合ノ似タル処ナル故ニ此ヲコ、ニ出セリト心得ベ
 シ夏ノ夜ノフスヤフノ方ニナシユクカトスレハト云
 コ、ロナル故ニ漢土ノ語ノ末ニ用タルモ此ヤフナル
 処ニ用エト云フヲコレニテ悟ルベシ
 詩邶風ニ日居月諸胡迭而微ト云ルハ人心ノ中ニ正シ

旃

キ心ノ心ニウツルヲ譬ハ日輪トスルニアタルコトガ
 アルガ憂フルコトヲ月輪ト云方ニナシユキテタトヘン
 カト云ハ、フレニ答ヘテ日月ハ夕ガヒニ目ニカ、ラ
 又モノニナルモノナリ心ノ正シキ憂フルトニハ左様
 ノコトナキニナセフレニ喻フルコト言フベシト云コトナ
 リ論語ニ子貢曰有美玉斯韞櫃而藏諸善賈ヲ求メテ沽
 諸ト問レタリシハ藏ト云方ニセニカ、沽ト云方ニセニ
 カト云シ意ナリ子禽ガ問ニ子貢ノ答テ其諸異乎人之
 求之與トイヘル諸ノ字モ同ジ意モチナレ疋先ツ子禽
 ガ心得ヲ早ク引マハシ思セニトスル意得ニ語末ニア
 ルベキヲ先ツ上ヘ引上ゲテ其ハ此方ノコトニシテ心得
 ルコトデアラフト言フコ、ロニテ其諸トイヘルナリ左
 傳ニ語末ニ諸乎ト使ヒタル例間見ユヤハリフノ方ニ
 シテ行クコトニスルコトデアラフカト云フキコトナリ
 之焉ノ合音ニテ旃ト云此モ後世ニハ用ユルコトナシ譯
 シテイヘルバ、フレヲフニジヨフフレニシヨウ其処ニテ

明字言解

卷之一

廿二

之

ト云コ、ロニ用ユ、詩唐風ニ、人之為言、苟亦無信、舍旃、舍旃、トイヘルハ、フレヲフレナリニ聞、舍ニシヨフ、其処ニト云コ、ロナリ、魏風ニ、上慎旃、哉猶來無止、ト云ルモ、フノ上ニモ、フレヲ慎ムヤ、フニスルヲ、其処ニセニ、アテアラフカイト云フキミナリ、此字ヲノトヨム處ニ用ユルコトアリ、コレヲトヨム處ニ用ユルコトアリ、全体ノ此字、意聞人ノフレヲ其意ニ持チ居ル處ニツキテ、ヤハリ其物ノフレニツキテ、先ヲ指シイフ意ニスレバ、ノナリ、フノ聞タル人ノ意ニ持チ居ル處ノ物、若クハ事ヲ指シテイヘハ、コレナリ、サレハコレトヨムコト、本明白ナラザル訓ナリ、フレト云コ、ロナリト心得ベシ、論語ニ、學而時習之、ハ學ビタル處ノフレヲ習フナリ、子禽ガ求之、與抑與之、與トイヘルモ、其是邦ニ至ルトスルニハ、必ズ其政ノフレヲ其國君大夫ガ孔子ノ耳ニ入ル、ハ、フレニスルコトヲ指シテ、之ト云タルナリ、詩周南ニ、參差荇菜、左右流之、トイヘル之ハ、左右ヲ指シ、窈窕

淑、女寤寐、求之、ノ之ハ、寤寐ヲ指スコトニナルコトナリ、其故ハ、之ノ字、右ニ云タル如ク、聞人ノ意ニモ、チタル所ノ物事ヲ指スコトナルガ、今手ノフレヲ左モ右モト指シ、精神ノアルトコロヲ、寤モ寐モト指シ、言ヘハ、聞人ノコ、ロ、其左ト右ト寤ト寐トヲモツニ滞ルヲ、其滞ル處ノ當面ノモノヲ指スコトニナルコト、自然ノ勢ナル故ニ、流之ノ之ハ、左右ノフレヲ求之ノ之ハ、寤寐ナリト云コトニアルナリ、古文ニ其物ヲ上ニ言タルニヨリ、下ニ之ノ字ヲ用テ、フレト指シタルモノハ、常例ニテ、人ノ多少見及ビタルコトナリ、又物ヲ下ニ言フベキニヨリ、上ニ先ヅフレヲ指シテ、之ノ字ヲ用タルコトアリ、論語ニ、道之以政、齊之以刑、民免而無耻、ト云ル如キハ、之ト指セルモノ、即チ下ニ云ル民ノ行ヲ指シテイヘルナリ、又物ヲ擧ゲ言ハサレトモ、其語勢ニテ、其物自カラ知ラルベキ故ニ、其物ヲ始終言ハザルアリ、孟子ニ、江漢以濯之、秋陽以曝之、皓々乎莫能加焉、トイヘルハ、有若ヲバ、或人孔子ニ似タリトシテ、師ト

セント言タリシヌ中々及モ付カ又ト言フヲ又質ノア
シキ布又幾ヘニ水ヲカケテ炎日ニサラシテモ全体ノ
質ガ相違ナル故ニ所詮ヨキ布ノ白キニハ及バレザル
トヲ喻ニ取リテ言ルモノニテ之ト云ハ其質ノアシキ
トアリ江漢以濯之秋陽以曬之ト之ノ字ヲ疊ムトキハ
曬之ノノ字濯タル其布ヲ指ストニナルトナリ易乾
文言君子學以聚之問以辨之寬以居之仁以行之モ其聚
メタルヲ辨ジ辨ジタルニ居リ居ルトコロノヲ行ニ
スルトナリ次第ニ累ルニツケテ其物が段々ニ倍スル
故ニ累倍法ト名付タルナリ又其上ニツバケ言タル処
ニテ直ニ指シ言フトアリ論語ニ吾是之未能信トイヘ
ルハ是ニスルトバト云トニテ即チ仕ヘテ其言ヲ出
シテ用ヒラルトコロノ目當ニセラル辞ノ通りヲバ後
クデフレニ違ハヌヤフニ行フト又未ダ能セズト云ト
ナリ中庸ニ天命之謂性率性之謂道トイヘルモ之謂ト

書テ之字ヲ謂ノ上ニ置ケルハ之ノ字ノ上活動トナル
トナリ天命之謂トアレバ天命ノトオリニナシユクヲ
バ性ト謂フト云トナリ下モ性余スルトニ率ヌヤフニ
ナシユクヲバ道ト謂フト云トナリ易繫辭傳ニ富有之
謂大業日新之謂盛徳ナト並ニ同ジ闔戸謂之坤闔戸謂
之乾ナトノ謂之トアルハ謂字ノ上並ニ靜定シテアル
物ノ其名目ヲ明シタルナリ之謂ノ上ノ活動シタルト
同様ナリト思フベカラズ其他列女傳ナトニ詩曰云云
ハ其是之謂子ナドイヘルモ是ヤフナルトニイワレラ
カト云トナリ楚辭ニ樹蘭之九畹兮トアルモ蘭之ハ蘭
ヲバト云トナリ史記陳涉世家ニ輟耕之隴上トアル耕
之モ耕ヲバト云トナリ張儀傳ニ入張儀之楚ト云ル
張儀之モ張儀ヲバト云トナリゴレモ其楚ヨリ念ヲカ
ケタル張儀ヲバト云ヒ庸人ノスルワサノ耕ストバ
ト云モ香氣ノスグレタル蘭ヲバト云コト口ニテ思入
レノアル品ニハ皆右ノ如クニ書クトニテヤハリ之上

動活ト同シ意味ナリ又此之字ヲ中ニ挾ムト下ニ置ト
ノ差別アルヲナリ易遯卦六二ニ執之用黄牛之革莫之
勝説トイヘル即チ中ニ挾メルナリタトヘバ莫勝説之
ト書キテモ事ハ同シトナレモ文勢ニ叶フト叶ハザル
トノ差別アリ又下ニ書クベキヲ中ニ挾ムトニシ書キ
テモ其上ノ文勢ニ叶フト叶ハザルトニナルト同ジト
ナリ如此文勢ノ宜不_レ宜ヲ先_レツ迄ク喻サントナラバ知
己ト云ハ朋友ノ己カ_レヲ能ク知リタルヲ云_レトナレモ
彼カ知ル_レガ己ニハ各別ナリト云_レトニ成彼ヲ主トシテ
云_レトニナル_レトナリ己知トアレバカクアル己ヲ知レリ
ト云_レトニナリ己ヲ主トシテ云_レトニナル左傳僖廿八年ニ
晋文公楚ニ子反ヲ殺セル_レヲ聞キ喜ヒテ莫余毒也己
トイヘルガ如キハ子反カ目ガス敵ハ晋ノ文公ナレバ
其目ガストコロニアタリタル余ニヒドキ_レヲ以テア
タル_レカ此已後ハ出テ來ル_レアルマシト云ルキニナ
リトカク右ノ如ク當面ニアタリテアル_レヲ指スニハ

莫之勝説莫余毒ノ如クニ中ニ挾ニテ書クベキトナリ
當面ニアタル_レトニナリアタラス_レニテ語ル人ノ心ニ
三知レル_レヲ拈出シテ言キカス語勢ノトキハ下ニ置
ク_レトニシ書クベキトナリサレモ後世ノ文ニハ古文ノ體
ノ三ヲ倣ヒテ書クバカリニテ語勢ノ活動ノ機マテニ
通ジタル文士寡ナキニヤカヤフニ中ニ挾ニテ書ケル
ト甚タ少キ_レトナリタリ又此之字ヲトヨムノ用ヒ
方ニモ心得ベキ_レトアリ總別本邦ノ人物事ヲ語ルニ
ノ字ヲ言フ_レ甚タ多キ故ニ西土ノ文字中ニ之字ヲ用
ベキト用ユヘカラガルトノ差別至_レテ微細ノ_レトナ
リテ紛_レ失ヒ易キ_レトナレリタトヘバ本邦ノ語ニテ
表ノ門ノ屋根ノ内ノ東ノハシヨリ西ヘ五枚目ノ瓦ナ
ト云フニノ字ヲ六ツモ重子テ言フ_レナルカ西土ノ
文字ニコレヲ書ケハ前門屋上自東第五之瓦ト書ク_レ
ニテ之字ハ只一字ヲ最後ノ字ノ上ニ用ヒテ聞カヌ_レ
ナリ此ハ前門ト云ヨリ屋上ト云マテモ並ニ物ニ付キ

テフレヲ指スニ非スジテ聞人ノ心ニ覺ユ居ル処ノ前
 門屋上ヲ呼ビ出シ其心ニウカマシ置キテサテ其自東
 第五ト指ス処へ其心ヲバ持チコマセテサテ其瓦トシ
 テ指ス故ニ之字ヲ一ツ用ユルトニテ之字多カラザル
 故ニ心ノ持コムベキスチガスワルトニナリテ紛レ又
 下トナルトナリ凡ソ之字ヲ用ユルノ大意ハ右ヲ以テ
 推シテ其他ヲ例知スベシ故ニ之字ノ文中ニアルハタ
 トヘバ山路ヲ行ク人ノタメニ先へ行キコシタルモノ
 ガアトヨリ來ル人ノ為ニ枝折ヲ付ケテシルシトスル
 ガ如キモノナリト思フベシ一スチバカリニ枝折ヲ付
 ケズシテ四方ニ付ケテハ却テ迷ヲ重ヌル種トナリナリ
 サレバ古文ニ又之字ヲ疊用シタルアリ禮檀弓ニ南宮
 縉之妻之姑之喪夫子誨之鬢ト書ケルガ如キハ深キ子
 細アル故ノナリ其故ハ南宮縉之妻トイヘルハ即チ
 論語ニイヘル処ノ夫子以其兄之子妻トアル孔子ノ
 兄ノ女ノトニテ孔子ノ為ニハ姪女ナル故ニ孔子コレ

ニ鬢ノ禮ヲ誨ヘタマヘルナリ作者此ヲケテ聞サニト
 テ南宮縉之妻トカケルナリ其妻ノタメニハ姑ナルモ
 ノ喪一テ孔子ノ姪女ノ為ニハ大切ニスベキ禮ナル
 故ニ孔子コレヲ誨給ヘルヲ見セニトテ又妻之姑ト書
 タルナリ之喪ノ之字ハ乃チ常例ノ之ノ字ナリカヤフ
 ノ処其一處クニ之字ヲ置ザレバ孔子ノ誨ヘ給ヒタル
 ワケノ分ラヌトナル故ニ一處クニ之字ヲ用ヒ讀人
 ノ心ノ符牒ス其處ゴトニ心ヲフレニ持コマシクテ聞
 サニトテ右ノ如クニカケルモノナリ假リニコレラ言
 ハバ段々已前ノ符牒ヲ合セ合點サセテサテ今ノ正面
 ノ処マデニ思ヒイタラセニトスル意持ナリサテ此之
 字ヲ用ユル大意ハ品別ラスルガ第一ノ旨ナリ晉語
 暇豫之吾々不如鳥鳥人皆集苑已獨集於枯トイヘルハ
 人ノ苑ニ集リテ樂アルニ引ワケテ已ハヒトリ枯レタ
 ルニ集レリト云コノ口モチナリ詩陳風ニ泌之洋洋々ト
 イヘル之字ハヲバトヨムベシ是ハ小水ヲハ洋洋々タル

而

大水ナリト思フベシト云フナリカヤフナル差別ハ全
 体ノ語意ニヨリテ辨知ルコトニ元之字ノ置カタハ同シ
 一ナリ又之字ヲコロトヨムノ例ハ此是ノ下ニ出ス
 此字シテト讀フナレト本邦ノ語ニシテト云フハ只其
 事ノ其次ニツクコトヲ言フスルニ右ノシテト云フ辞
 ヲ用ユ文字中ノ而字ハ右ト小異アリテ其事ノツキ
 ヲ語ラントスルニ譬バ二ノ次ノ三ヲ語ルニ其二ヲ引
 カケテ持タセ置キテサテフレニ三ヲ加ヘテ思ハスル
 ニ而字ヲ用ユ本邦小兒ノ戯ニ自カラ右手ヲ以其左ノ
 耳朶ヲツマミ左手ヲ以其鼻ノ尖ヲツマミテ三四返マ
 ワルコトヲスルコトアルカ右ノ事ヲ語ルニ右手耳朶ヲツ
 マミ左手鼻尖ヲツマムトノ三言ヘバ耳朶ヲツマミヤ
 ミテサテ鼻尖ヲツマムコトニ聞取リテハ詮ナキコトナル
 カ其間ニ右ノ而字ヲ加ヘテ右手耳朶ヲツマミ而左手
 鼻尖ヲツマムトイヘバ右手耳朶ヲハナレヌコトニシテ
 聞クコトニナルカヤフコトコト即チ而字必用ノ処ナリ

右ノ故又更ニ細ニ其所以然ヲ明サントナラバ凡ク文
 理ト云モノハ但一スチナルモノナリ故ハ人ノ神氣ハ
 即チ天地ノ神氣ニ元國語ニモ神者聰明正直而壹者也
 トイヘリ右ノ壹ナル神氣ニ其言フトコロヲ聞セテナ
 テ其思ヲバ其言フ辞ノ象ヲモタセテハコトバスコトナル
 故ニ幾ハナモ路アリテハ神理ニ違ヒテ通ゼヌコトナ
 ル故ニ文理ハ但一スチナルモノナリサレバ其スチヲ
 ツタヒテ段々ニ次ヘカワリクスルハ右ノ一スチヲマ
 キレヌ様ニ立テ辞トシ即チ文理トスルコトナルカ物ニ
 ハ又表裏陰陽向背アリテ此裏背陰ハ皆幽ノ属表向陽
 ハ皆明ノ属ニテ物ヲ語ルニ其ヲ併セテ喻サレバ通
 ゼヌコトアリ右ノ文理ノ一スチナルニ於テ物ノ幽明ヲ
 併セテ語レバ其明ナルカ文理ノ正面ノコトナリテ其
 幽ナルハ其明ニ旁帯タル依リ物トナル而ノ字ハイツ
 ニテモ此幽明ノカスガヒニ元幽明ヲ併セテモタスル
 タメニ用ユル文字ナリト思フベシサレバ本邦ノ助辞

ニ用ユルシテト云フ語ハ次クヲ立テユクタメニ用ユ
 ルトハ、全体ノ趣相違セル字ナリト心得ベシサテ右ノ
 幽明ト云フヲ古言ニ徴シテ知ラントナラバ、先ツ論語
 ニ、學而時習之トアル學ハ、ナビテオキテト云フニ四
 ル故ニ、幽ナリ時習之ハ、當面ノトナル故ニ明ナリ人
 不知而不愠トアル、其上ノ人不知ハ、人ノ知ラヌトガ
 リテモト云フニ、回ル故ニ、幽ナリ不愠ハ、即其明ナリ六
 學ノ知止而後有定モ止ヲ知ルトアリト云フヲ會得シ
 テト云フナル故ニ、コレモ幽ノトナリ、莊子逍遙遊ニ北
 冥有魚其名爲鯤、鯤之大不知其幾千里也、化而爲鳥其名
 爲鵬、トイヘルモ、化スルトニナリテ、サテ鳥トナルト云
 フナルガ、其他シタルトカケヘ回シテ、フレヲ持テサ
 テ其鳥トナリタル処、又正面ニモ夕シ聞サント云、而ト
 イヘルナリ、又云、奚以之九萬里而南爲、ト云ルハ、何トニ
 ヲコトニテ、九萬里ニアガリ之キテ、サテソレニテ南、
 ムキユクヤフナルトヲ以テセルゴト云フナリ、九而字

ヲ用ユルノ法、後世ノ文ニテモ、ヤハリ皆コノトオリニ
 シテ用ユルトナリ、古文ニハ、而字用タルト用ザルト紛
 ル、トアリタトハ、人無信トアリテモ、聞ユベキニ論
 語ニ、人而無信トアルハ、人ト云フモテ居テト云フナル
 故ニ、人而ナリ、大學ノ可以人而不知鳥、糸トハ、人テアリ
 ナガエ、鳥ボトニユカヌト云フヲ以テ言フテ立ツトカ
 ト云コ、口ナリ、孟子ニ、齊植晉文之事、可得聞、糸トアル
 ハ、只聞クトヲ得ベシト云フナリ、論語ニ、夫子之言、性與
 天道、不可得而聞也、トイヘルニハ、而字ヲハサニタリ、コ
 レハ、カヤフニスレバ、フナリニ聞クトヲ得ラル、ト
 云フニユカヌト云コ、口ニ云、而ト得トノ間、カヤフ
 ニスレバ、フナリニト云フキミヲ言フ語ヲ略シタル
 モノナリ、孟子萬章ニ、盛德之士、君不得而臣、父不得而子
 ト云ルハ、而臣ハ、ソレナリニ臣トスルナリ、而子ハ、ソレ
 ナリニ子トスルナリ、左傳隱十一年ニ、鄭莊公ノ許ニ命
 ゼシ語ニ、天而既厭周德、矣吾其能與許、糸トアルモ、天

ト而ノ間ニ。上ニ言オキタル許ノ徳ヲ修シ。天ヲ敬スル
コヲスルコトヲ。此處ニ挿ニ持テ。天ガフレニテト云コ、
口モチナリ。史記商君傳ニ。喟然嘆ト書キ。蘇秦傳ニモ。喟
然歎ト書キタルケルニ。又自序ニ。喟然而歎ト書キ。又司
馬相如傳ニ。听然而笑ト書ケルアリ。此ハ。タ。喟然タル
様子ニテ歎ニタルガ。喟然嘆ナリ。喟然タル様子ニテ。サ
テ嘆シタルト云フガ。而嘆ナリ。此ハ。其坐シテ居タル景
色ナドヲ書キテ。サテ其処ニテノ喟然歎ナレハ。而ヲ用
ユ。其故ハ。聞人ノフレヲ聞キ居レル心ノ象ニ。已ニ其列
坐シ居レル象ヲ目先ニ持チ居レル故ニ。先其喟然タリ
シ様子ヲ。其処ニモタセテ。サテ其語ノ意旨ヘ。聞人ノコ
コロラウツシ聞サントスル故ニ。右ノゴトクニ書クコ
ナリ。而字ヲ句末ニ置ク法ハ。詩ノ乎。而ナリ。此義已ニ前
ニ辨ズ。今贅セス。此。而字。又然字ニ似タル使方アリ。下ニ
辨ズ。

然

此字本火ノ物ニモ正付キテ。其燭ノツタヒユク処ガ。其
形質ノ通りニナリユクコト。然ト稱スル故ニ。借用シテ
此物ノ實ノユキサマガ。其辞ニ形容シタル通りナルヲ
其トオリナリト許シ言フニ用ヒタルナリ。論語ニ。冉雍
ガ無乃太簡乎トイヘルニ。孔子答テ。雍之言然ト云タマ
エルハ。雍ガ言ヘル処ガ。實ニハスチハ。其トオリユク
コトナリト云タマヘルコト。口モチナリ。此然ノ字。是ノ字
ト紛ル。コト多シ。サレモ。是也ト云ハ。物ノアタリガ。ソレ
カコレカトスルヲ。コレガ其物ニアタルト云フガ。是ノ
字ニテ。非ノ反對ナリ。孟子ニ。前日之不受。是則今日受。非
也。今日之受。是則前日之不受。非也ト云類ニテ推知ルベ
シ。然ハ右ニ云ル如ク。物ノユキサマガ。其辞ノトオリニ
アレバ。然ナリ。其トオリニ合サレハ。不然ナリ。莊子齊物
論ニ。惡乎然。然於然。惡乎不然。不然於不然。トアルモ。コレ
ヲ以テ。辨ジ知ルベシ。サレバ。齧缺問乎。王倪曰。子知物之
所同是乎。ト云ルモ。物ノサマクナル多勢ガ。イヅレモソ

レハ、コレガフレヂヤトスルトコロハ、コ、ナリト云ト
 コロヲ知ルヤト云フナリト心得ベシ道遥遊ニ連叔曰
 然トイヘルハ、サソサヤフニ、アルベキナリトイヘル
 コ、ロナリ、サテ此然字ヲ語辞ニ用ユルトキハ、十ガ七
 ハトカク然字ノ下ハ、上ヲ打カヘス語勢多シト心得ベ
 シ其故ハ、辞ノ常理ニテ、物ノ其通りニユクフヲ許スハ
 先ヅ其スヂヲ立テトオラシテ、其ハツミヲ一ヌキヌカ
 セテ、サテ其許サヌトコロノヲ合點サスルコ、ロモ
 チナリ、史記鄒衍傳ニ、其上ニ中國ノ九州ハ一州ニテ、其
 九州ヲ一州トシタル如キモ、九ツアリテ、其外ヲ裨海
 ガフレヲメグラシ、其裨海ノ環レル如キモノ、又九ツア
 リテ、大瀛海其外ヲメグレリ、天ト地トノ打合ナリト云
 後ニ、其術皆此類也、然要其歸必止乎仁義節儉君臣上下
 六親之施始也、濫耳トイヘル然字ノ如キモ、其始メノ妄
 誕ナルコ、ロノ限りモナキ様子ヲ人々ノツレヲ見テ思フ
 トコロヲフレニシテ立テトオラシテ、フレハツレニテ

然

フレトモ、其落着ノ處ヲツメタルトコロハ、セロニ仁義
 節儉ニ止ルコ、ロニナリアルガ、其ヲ言始ムルニハ、法ニハ
 ツレテ言出セルバカリナリト云フナリ、平原君傳ニ、眞
 卿ハ魏齊ニ忍ビサルニ及ニテ、卒ニハ大梁ニ困メリ、庸
 夫モ且知其不可、况賢人乎、然眞卿非窮愁亦不能著書、以
 自見於後世、云トイヘルモ、魏齊ヲスワルニ忍ヒズシテ
 趙ヲ去リ艱苦シタルヌ、智者ニテハ、知ラヌコ、ロニテハ、ア
 ルマシト思フト云ヒテ、サテツレハツレニシテ立テト
 オラシテ、フレハツレニテアレトモ、眞卿ハ窮シテ愁夕
 ルニ非スハ、書ヲ著ハシテ後世ニハ、知ラレマシト云フ
 チヤト云フナリ、刺客傳ニ、自曹沫至荆軻五人、此其義或
 成或不成、然其立意較然、不欺其志、名垂後世、豈妄也哉、ト
 イヘルハ、五人ノ義ノアルトヨロ事ノ成就不成、就ノ差
 別アレ、氏ソレハツレニテアレ、氏意ヲ立テタルトコロ
 キツカリトワカレ、ノ立チテ、其志ヲ欺カザレバ、其名ノ
 後ニツタワルコ、ロガ、アタリノチキコ、ロテアラフカイト云

ナリ何レニモ此然字ハ物事ノ外ガハノ様子ノ善ニ
 テモ惡ニテモツレト立チテ見ユル處ヲ先ヅツレナリ
 ニシテ立ツトニシテサテ其内ツラノ實ニソレニ因ラ
 サル一筋ヲ推シ立テ言ハントスルニハ必ズ此然字ヲ
 用ユルナリ又然ト雖然トノ差別アリ此ハ雖ノ條下
 ニ辨ズベシ又古文然ヲ用ユルニ語ノ首ニ置クアリ
 詩大雅ニ帝謂文王無然畔援無然歆羨又天之方難無然
 憲如天之方蹶無然泚々トイヘル然字是ナリコレハヤ
 ハリイワマデモ今マデノ畔援ノトオリニナシ居ル
 ラヤメテツレヲ改メヨト云キ三十リ歆羨憲々泚々並
 ニ此ヲ以テ準知スベシサテ而字ハ然ト紛ル處ノ別
 ヲ辨ゼバ史記南越傳ニ南越内属國之利也而相君苦不
 使者何也トイヘル如キハ然字ニ似タレ此而ノ下ノ
 語意ニ別ノスナラ立ルナク唯其而字ノ上ノ語意ニ
 持タル處へ持カヘシテ其カフレヲ持ナガラ兩歧ニ分
 ル、処又推シ問意ナル故ニ而字ヲ用ユルナリ平準書

ニ、今天下不幸有急而式奮願父子死之雖未戰可謂義形
 於内ト云ルモ今天下ノ不幸ニテ南越ノ反セル急アリ
 テソレヲ持タルニト式ハ自カラ奮テ父子共ニ往キ戰
 テ死セシト願ヘルハ戰カハサレ其義ナルハ内
 ニアラハレタリトイハルト云フニテ此而ノ字ツレ
 ヲ持タルニト云フニアタルナリ左傳昭七年ニ昭公楚
 ニ往キテ楚子公ヲ新臺ニ享シ大屈ノ弓ヲオクリテ後
 ニソレヲ悔シニ遠啓疆ソレヲ聞テ昭公ニ見ヘテワザ
 ト拜賀ス公曰何賀對曰齊與晉越欲此久矣寡君無適與
 也而傳諸君君其備禦三鄰慎守寶矣敢不賀乎ト云ルハ
 大屈ノ弓ハ齊晉越ノ三國ヨリ望ヲカケタルモノナレ
 氏寡君ヨリイソレヘトシ與ヘヤフナキ故ニ今君ニソ
 レヲ傳ヘラレタリ君ハコレヨリ右ノ三隣國ニ備ヘテ
 奪ニ來ルヲフセガレヨ慎テ守ルハ寶ナレハ賀スルナ
 リトイヘルナリ此而字モソレニ意ヲモツテト云コ
 ロニテ用タルナリサレバ此而字ハ上ニ言タル語ノ事

アルニ立カヘリ思ハセテ其ヲ心ニ持テフレニ付ケテ
 後ノ事ノ出テ來リタルヲツナギ合セテ聞カセントテ
 右ノ而字ヲ用タルニテ然字ノ打カヘス意トハ相似タ
 ルヤフナレトモ各段ノ別勢ナリ又然而トツクアリ
 韓非子說難ニ此ニ說者其知皆當矣然而甚者為戮薄者
 見疑トイヘルハ其知皆當ルト云ニナリテ往キタルニ
 モソレヲ持タルナリニト云コ、ロニテ然而ナリ陳平
 傳ニ宣言諸將鍾離昧等為頂王將功多矣然而終不得裂
 地而王ト云ルモ功ノ多キハ多ニナリ往キタルニソレ
 ニモツタルナリニト云コ、ロナリサテ又而字ヲ者ク
 ベキ処ヲ知ラザレバ而字ヲ加フベキ処モ明カナラザ
 レバ先ヅ而字ヲ省ケル法ヲ辨ズヘシ大凡文中ニ而字
 ニ限ラズ其語勢助字アルベキ者キタルハ多クハ前
 ニモイヘル如ク當面ノ辞トスル故ニセルモノナリ當
 面ノ辞トハ凡文章ニ書クハ並ニ皆今日ノ言語ヲ文字
 ニウツシタルモノ故ニ全体ヲバ先ヅ言語ナリト思フ

ベレ凡今日ノ言語ニ物事ヲ言フニ其後ニ添ル聲ナキ
 ハ並ニ皆當面ノ辞ナリタトヘバ我ハ只今來タト云フ
 ハ當面ノフニテソレヲウケサスル辞トナリ我ハ只今
 來タゾトゾノ字ヲソユレバ語リテソレヲ心得サスル
 意トナルウケサスルトハ其只今來タトバカリ云テ未
 タ其アトヲ言ワザレバ聞入ノ心ヲ其辞ノ内ニ引ツケ
 ヲケサスルナリ其後ニゾノ字ヲ付レバ已ニ早其ヲ聞
 入ノ心ノ内ニ心得サスル語氣トナルヲナルガ而字ハ
 已前ニモ言タル如ク幽明ノカスガヒニ用ユル文字ニ
 テ、夕、物ノ表ニ其裏ヲ合セテ聞カサント思フバカリ
 ノコ、ロニテ、而字ヲ以テツナキ言タル意持ナル処
 ニテ此而字ノツナキタルハ夕、其旁帶シタルバカリ
 ノ心トナル故ニ而字アリナガラ尚未成ノ語トナレル
 一モアルナリ禮表記ニ彰人之善而美人之功以求不賢
 トイヘル如キ彰人之善ハ其幽ノフヲ彰ワスフナリ美
 人之功ハ其明ノフヲ美トスルナリ右ノ二言ニテ其幽

明ニ於ケル処ノコヲツナギ丸メテ言テサテソレヲ以テ賢ニ下ランコヲ求ムルコラスルコトイヘルナリ又而字ヲ累用シタルアリ易繫辭傳ニ夫易彰往而察來而微顯闡幽トイヘル是ナリ此彰往ハ明ニスルナリ察來ハ幽ニスルナリ右ノ二言ニテ其幽明ニ於ケル処ノコヲツナギ丸メ言テサテソノ丸メタルヲ幽ニ持テソレニテ顯ヲ微ニスルコトヲモ幽ヲ闡クコトヲモナジユクト云フコトナリサレバ而字ハ其ヲ用フレバ右ノ如クニ幽明ヲツナギ合セテ尤物ニナル故ニ而字ヲ中間ニ挾ニタル語ハ自カラ聞人ノ記識界ニ半分ヲ明界ニカケテモタセル趣トナルコトナリ而テ省クノ法ハ其ツナグベキヲソナカズシテ此辭ノ内ニ其聞人ノ心ヲ引ツケ承ケサセテ彼ガ幽界ニ於テ自己ノ意ヲ以テ完成スルヤフニシテ聞カスコノモキナリ故ニ而字アレバ已成ノ語トナリ無レバ未成ノ語トナリ當面ニナリテ活動ス然レ凡其ツナガザル前語ガ冒頭トナルカ又ハ

斜挿トナルカニナリテ其全体ノ勢即チ當面ノ語勢トナルナリ史記張耳傳ニ貫高曰所以不死一身無餘者百張王不反也トイヘルハ不死ノ二字冒ナリ陳涉世家ニ百姓多聞其賢未知其死也ハ聞其賢三字斜挿ナリ依然笑喟然歎ナド依然喟然笑歎ノ爲ニ勢ヲ取ルノ冒ナリ凡ソ右ノ如クナル而字ヲ省キテ當面ノ語トシ言フタルハ並ニ聞人ニ其処ヲ見コマセテ其勢ヲ生タルヤフニシテ思ワセントテ右ノ如クシテ言ヘルナリト知ルベシ

助字詳解卷之一

